

1. 件名：「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング (MOX 燃料加工施設 (1-123))」

2. 日時：令和4年5月16日(月) 13時30分～16時45分

3. 場所：原子力規制庁 10階会議室 (TV会議により実施)

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

古作企画調査官、岸野主任安全審査官、津金主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官、上出安全審査官、武田安全審査官、

日本原燃株式会社 大柿 常務執行役員 他10名

東京電力ホールディングス株式会社 原子燃料サイクル部

サイクル技術グループ チームリーダー 他1名

関西電力株式会社 原子力事業本部 原子燃料部門

原燃計画グループリーダー 他1名

中部電力株式会社 原子燃料サイクル部 サイクル戦略グループ 課長

北海道電力株式会社 原子燃料サイクルグループリーダー 他1名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料

なし

参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書 (令和2年12月24日)
「日本原燃(株)から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nsr.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000069.html
- ・ 日本原燃株式会社 MOX燃料工場 規制法令及び通達に係る文書 (令和2年12月24日)

「日本原燃（株）から再処理事業所 MOX 燃料加工施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」

https://www.nsr.go.jp/disclosure/law_new/FAB/180000124.html

・ 令和 4 年 4 月 6 日

「日本原燃（株）再処理施設、MOX 施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	規制庁津川です。録音開始しました。
0:00:07	はい。規制庁の武田です。それではただいまから、日本原燃とのヒアリングを開始いたします。
0:00:13	本日のヒアリングは、令和2年12月に申請があった設工認申請について、4月6日に提出があった資料をもとにヒアリングを行うものになります。
0:00:24	規制庁側の出席者ですが、本庁9本庁からは津金が出席しております。
0:00:32	ウェブからの参加が、
0:00:34	けしのハバサキカミデタケダ。
0:00:39	以上になります。
0:00:41	それでは日本原燃から出席者の紹介と、議題の構成、説明範囲、達成目標について説明をお願いします。
0:00:50	はい。日本原燃中浜でございます。
0:00:53	日本原燃側の参加者を紹介いたします。
0:00:57	オオガキ。
0:00:58	尾松。
0:00:59	井口。
0:01:00	広谷。
0:01:02	小橋ウラバヤシ。
0:01:04	オガセ。
0:01:06	ヤマモト。
0:01:07	キョウダ。
0:01:08	ノウシヨ。
0:01:10	ナカハマ以上になります。
0:01:13	本日ご説明差し上げます資料でございますが、
0:01:17	画面共有させていただいてございます。
0:01:19	耐震建物関係に関わる補足説明資料、5種類、新建物の8、
0:01:27	10、
0:01:28	11、
0:01:30	06、
0:01:31	07以上となります。
0:01:34	よろしければ、新建物08からご説明さしあげたいですけれどもよろしいでしょうか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:01:42	規制庁の竹田です。ありがとうございます。それでは耐震建物 08 のほうから説明をお願いいたします。
0:01:50	はい。日本原燃のオガセでございます。耐震建物 08 の地盤モデル関係の資料につきまして前回のご指摘踏まえまして会計して参りましたのでこちらについて概要をご説明いたします。
0:02:01	こちらの前回いただいたご指摘としましては主に二つありまして、一つ、今までは我々のこの地盤モデルの物性値の設定に当たりまして、V s の設定についてちょっと重きを置いてご説明していたところだったんですけれども、
0:02:14	対し単位体積重量、こちらの設定方針についても説明しようというところでもございました。こちらの中身について概要のみご説明いたしますが、ページでいきますと 25 ページと 26 ページのあたりをちょっとご覧いただければと思います。
0:02:28	2526 ページにございます通り、こちら図の方で 26 ページの図にもございますが、各速度境界の中で、獲られている単位体積重量のデータ、こちらを平均化して、設定しているというところもございます。
0:02:41	これに対しましてこの各速度層中の中でもですね一部ちょっとこのローの値単位体積重量の値がちょっとばらつくところもございますので、念のための影響確認といたしまして、後ろの参考資料の方ですね、ページでいきますと 75 ページ、
0:02:56	76 ページのところでございますけれども、こちらの方でお示ししております通り、細分化を仮に反映させた場合に応答に影響あるかというところで確認を行ってございます。
0:03:06	仮結果として、応答に影響はなかったというところですので、もともと 25 ページのところでお示ししております単位体積重量の値こちら方等に設定されているというところを確認しているものでございます。
0:03:17	もう一つのご指摘でございますが、今回我々の逐次典型解析を、ひずみが大きい領域に対して検証の位置付けでやっているところではあるんですけれども、こちらにつきまして考察を書いていたところでございますが、ちょっとずーの紐付けですねどこをどういう観点で見るかというところがちょっとわかりにくいところがあると。
0:03:35	いうところのご指摘がございましたので、こちらについても修正をかけているところもございます。こちらのページの 62 ページからの考察の章のところでございますけれども、こちらについてなるべくちょっとわ

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	かりやすくなるように文章の方を修正してきているというところがございます。
0:03:50	主な修正事項につきましては以上でございます。
0:03:57	はい。
0:03:58	江藤です。ありがとうございます。
0:04:01	それでは耐震建物 08 につきまして規制庁側から確認がありましたらお願いいたします。
0:04:20	規制庁のキシノです。ちょっと私の方からですね、今ご説明があった箇所に関連して何。
0:04:26	ヶ所かの確認をしたいと思います。
0:04:30	まず冒頭、ご説明のあった 25 ページ単位体積重量について説明を加えたってということで、関連してなんですけども、
0:04:39	安定的容量についてはこちらから指摘をして設置する机覚えてもらったんですけれども、
0:04:46	他に事業変更許可申請書に記載されてない物性値で、説明もなしに使ってるような物性値がないかっていうのは事業者の方で確認されているでしょうか。
0:05:12	数十万年のオガセでございます。こちらの燃料加工建屋の設計に使っているものという観点でご説明いたしますけれども、今回設定している地盤モデルに使っているこの物性値、こちらにつきましては今回木場直下地盤モデルの方を使うというふうにしておりましてその数値というのは、
0:05:28	地盤の支持性能の基本方針こちらの方にすべて記載しているということにしてございまして、他の数字のところでもそういうのに謳っていないもしくは許可で使って許可で使ってないようなものを、
0:05:39	新しくここでいきなり出てくるというところはないというところを設定してございます。以上です。
0:05:44	院長の岸野です。はい、わかりました。
0:05:47	ないということなんですけどちょっとそれを確認するすが私たちの方にないように思っていて、今言われた地盤の申請の基本方針のほうで説明しているっていうふうにおっしゃったんですけど、
0:05:58	別紙 4-2 ですかね 00 シリーズの中で自分の申請の数から、基本方針の中で、事業変更許可申請書に記載された物性値が記載された内部数値等の一覧表ってのはちょっと示されてましたっけ、これまでまだ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:12	シミズ整理して示されたものがなかったかなと思うんですけども。
0:06:16	これはいつ示す予定なのか見通しを教えてください。
0:06:36	市長の岸野です。すみません。音声に不調とかがあったら申し出ていただけないでしょうか。
0:06:40	日本原燃土橋でございます。岸野さん申し上げませんちょっとですね音声の方がちょっと聞き取りにくい部分がございますして申し訳ございませんけどもう一度お願いいたしますでしょうか。
0:06:52	地盤の支持性能の基本方針等で説明しているというようなご説明だったかと思うんですが、地盤の申請に係る基本方針の中で、
0:07:04	一覧表形式で、物性値というのを説明をされていないように思うのですが、もしそのような認識で間違っていなければ、いつ示す予定なのか見通しを教えてください。
0:07:19	はい日本遠藤氏でございます。こちらの基本方針関係に関しましては全体的な共通シリーズのところは今修正をかけているところがございますしてちょっと今ほどのご指摘のところも踏まえまして
0:07:33	星さんはちょっと私の方もそちらの方まだ頭ん中に入っていない部分ございますのでもし記載されていない数字がございましたらそちらの方はこちらの方にも入れるような形の方で今対応して参りますので、
0:07:46	次回提示するものにつきましてはその内容を踏まえた形の方で提出させていただきます。以上でございます。
0:07:53	数値のキシノです。はい、わかりました。見通しとして次回の 00 シリーズの説明の中で、
0:08:00	確か別紙 4-2 だったかと思いますが、地盤の支持性能の基本方針の中では、今まで資料に盛り込まれていなかった物性値の表なんか盛り込んだ形で今後説明があるというふうに理解しましたが、それでよろしいですか。
0:08:16	はい。日本原燃の土橋でございます。その社内の、
0:08:20	ここで内部で確認の方を実施しますが資料の方に何らかの形の方で反映してその部分というのが見えるような形の方で対応させていただきます。
0:08:30	清町の岸野です。はい、わかりました。よろしく申し上げます。
0:08:34	続いて、
0:08:39	もう 1 点の修正箇所ということで 5 冊について、説明を充実していたと言われているところについてなんですけど、ページでいきますと、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:50	62 ページの方をお願いできますか。
0:09:01	日本原燃のオガセでございますおっしゃる通り 62 ページ。
0:09:05	以降の 623456 ページまで、はい。になります。はい。
0:09:12	露木です。はい、ありがとうございます。表示していただいているように見えます。
0:09:16	まず 62 ページなんですけれども、
0:09:20	下から 3 パラグラフ名。
0:09:24	ですね、表層地盤からって始まるパラグラフの 3 行目にですね。
0:09:29	最大加速度分布は表層地盤の冒頭に解析手法による差異が見られるというふうに、ご説明がありますし、
0:09:40	ここよりも前のページ、例えば 50 ページの右側の図、応答加速度ですとか、
0:09:48	51 ページのスペクトルの図、
0:09:53	上の図ですねこれは 43 名、43.2 メートルのスペクトルの図ランクを見ても、
0:10:02	明らか 2、
0:10:05	差異が見られるというような状況になっているわけですが、一方でこれに対する考察として、
0:10:12	62 ページの、
0:10:15	2 パラ目以降ですかね。
0:10:21	表層地盤からの反射は或いは反射の傾向に大きな差がなかったっていうことが、
0:10:27	繰り返し述べられていますけれども、
0:10:32	先ほど、事業者みずから、
0:10:37	表層地盤のもとに解析手法による差異が見られるとして図で示したことについて、
0:10:43	これはどういうことなのかというのが 62 ページ後半から 63 ページにかけての考察の中で特に触れられていないように、
0:10:52	思います。
0:10:54	その上で 63 ページ一番下の結論で、
0:10:59	同等または保守的とまとめてしまう。
0:11:02	できますけれども、
0:11:04	解析結果をこれを網羅的に評価した上での結論になっていないように思うんですが、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:10	どのように事業者の方で、
0:11:13	この表層地盤の冒頭の違いに対して評価しているのでしょうか。
0:11:17	これらの側面を無視しても結論をまとめているというよりも読めるんですが、
0:11:22	この辺りの考え方を説明いただけますでしょうか。
0:11:27	はい。日本原燃のオガセでございます。こちらについてですけれどもちょっと順を追ってご説明をさせていただきたいと思います。まず、62ページのところの真ん中のパラグラフ建屋基礎底面レベルまでの上昇範囲に着目するとで始まるスペースで囲まれているところなんですけれども、
0:11:46	こちらにつきましては、逐次非線形解析というのはこの岩盤へとまで違うんですか。等価線形ですね等価線形解析というのはこの基礎底面レベルまでの岩盤中の増幅を大きく与えたということで、
0:11:58	これ応答がこの等価線形の方が大きくなったところをまず考察として書いているこれは結果を踏まえた考察だというふうに我々は認識しているところでございます。そこからさらにここが次反射の話に行くんですけれども、
0:12:12	この反射の傾向につきましては剛性低下率と変わらないといったそういうようなところの状況を踏まえまして、おそらく反射率としてはあまりか反射の影響についてはあまり変わらなかったであろうというところでございます。
0:12:23	この二つの立場、つまり木曾よりも下というのは増幅傾向が大きかった、反射の方はあまり影響が大きくなかった。それらを最終的に踏まえますと、その最後の63ページの一番下の結論を議決いたしまして、同等または保守的な結果になったと考えているというふうなところでストーリーとしてはそういうふうに書いているという認識でございます。
0:12:43	以上です。
0:12:45	清町の岸野です。ちょっとまだご説明を聞いてもよくわからないというか、
0:12:51	何かの結論に至るまでの説明が随分端折られているような感じがするんですけれども。
0:12:56	上昇幅において差が見られるってのはわかるんですが、表層地盤からの反射には、差がないって言うてる辺りがよくわかりません。
0:13:08	で、それは50ページの図や51ページの図で、明らかに差が見られているのに、それに対する説明になっ

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:16	ているのかがわからないんですけどそのあたりもう少しかみ砕いてご説明いただけないですか。
0:13:26	はい。日本原燃のオガセでございますこちら 50 ページ 5051 ページにあるようなこちらの絵とかなんですけれどもこちらの反射はのコミュニティの建屋の入力地震入力地震動を入力するレベルでの地盤応答というところになっているところでございますが、
0:13:42	これが正しくですね先ほど申し上げましたように、上昇派の方でもご指摘だった結果、プラス反射法の方でもそんなに影響がなかったというところの兼ね合いが出てきていると思っているところでございますが、
0:13:52	今只野キシノさんおっしゃいました通り浅い方に行ったときに、ちょっと 0.5 秒ぐらいのところが大きくなっているところの実際そういった傾向というところがありますので、必ずしもちょっとすいません反射版による影響が同等だったというふうなところはちょっと、
0:14:08	言い過ぎだったのかなという気はしているところでございます。ただ今回我々としましてこの話が行ったり来たりして申し訳ないんですが 62 ページとかのところの考察で単社に対する影響というのはですねどこに着目して、社の影響があったかないかというところを言っているかと言いますと、
0:14:24	その入力として、保守的、保守的じゃないすみません支配的なのが側面というよりも基礎の底面のところの入力が、やはり保守的、支配的であろうというところの考えに立っておりますが、
0:14:35	この管理者はが基礎下から上に上がって行って、表層に行ってはね返ってきて、基礎底面まで戻ってくるとき、その観点で一番最初から一番最後まで降りてくる場所ではほとんど影響がなかったなというようなところを確認しているという考察にしております。
0:14:51	今野キシノさんが 51 ページのところの図で教えおっしゃっていたのは、会社が上っておりていくところの途中での取り出しのところでございますので、そういうところでやはり多少の差、多少のといふかさはあったというところですが、最終的に建屋の応答を出す上で支配的なところという観点では、
0:15:08	あまり影響はなかったというそういうような考察をちょっと 62 ページのところでは示しているところございました。
0:15:15	院長の岸野です。はい。そういうことかなと思ひながら、読みつつもですね、表層地盤からの反射はっていうのは、どこの部位をさせるかによってちょっと読み取り方も変わってきて、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:28	表層地盤と言ってるのは、おそらく標高で、
0:15:32	31.53メートル。
0:15:35	建屋基礎底面レベルよりも上を表層地盤と言っていて、そこからの反射となるところの31.53メートルより、
0:15:45	網下といいますか31.53メートルにおける、上からの反射はということ、というふうにとらえて読んでいくとですね、言ってる意味がちょっとよくわからないと。
0:15:56	今のご説明だと、表層地盤、31.53メートルよりも上の、各部分における反射はと言っているのかわかりませんが、
0:16:07	応答はにおいて、いろんな違いはあるけれども、最終的にといいますか、31.53メートルレベルにおける、地震応答解析によって最も主たる入力である、
0:16:22	応答には差がなかったということの意味しているということであればですね、多少は理解ができるかと思いますが、そういう趣旨でよかったですね。
0:16:31	ありがとうございます。日本原燃のオガセでございますただいまの岸野さんがおっしゃった通りの趣旨でございました。記載としましては62ページのところの、
0:16:43	3番目のスタッフスペース二つ目のスペース等の表層地盤から建屋基礎底面レベルまでの反射に着目するということふうなところで記載していたつもりではあったんですけども、ちょっとすみませんわかりにくくなっていたというところでございます趣旨についてはただいま岸野さんがご説明おっしゃっていただいたことの内容の通りでございます。以上です。
0:17:03	成長吉村です。はい、わかりました。衛藤理解が進んだんですけども、やはりここはですねちょっと説明の文章が少しわかりにくくなっているように思います。
0:17:15	まず一つはですね表層地盤と定義。
0:17:19	しているのが、一番前の方のページであったかと思うんですけども、5ページですかね。
0:17:24	うん。そういう頭で上に進んでいくと今おっしゃってた説明がずっと、説明の通りには読み、読めないというようなところもあったり、
0:17:33	表層地盤という言葉を使っていたり使っていなかったり、基礎底盤以深とか伊勢とかいうような言葉に置き換えられたりしてそれぞれ違う意味で使われているようなところもあってですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:44	読み取りずらすっていうのも随所に見られるというところもありますので、この文章としてはですねちゃんと何を説明したいのかということですね、ちゃんと明確にできるような文章表現、
0:17:56	心がけていただきたいというのがまず一つでございますが、その点はよろしいでしょうか。
0:18:04	日本原燃のオガセでございますご指摘、拝承いたしました。もう少しきちんとしてどういう着目という観点で着目して、どこの反射を見ているかどこの地盤のものを見ているかというところを明確になるようにしまして、
0:18:17	そういった前置きがあった上でちょっとすいません各深さのところの考察のほうを書くような形で構成の方見直させていただきます。以上です。
0:18:26	院長の岸野です。はい。お願いします。で、あともう一つは先ほど大賀さんが言われたように、表層地盤のその冒頭にはいろいろザッ差は見られるものの、
0:18:36	主たる入力となる基礎地盤位置における入力には差がないと、ということかと思えます。表層地盤の冒頭の差異について、なぜそういう差異が発生するのかといった考察を深めるという、
0:18:53	ことも重要なんでしょうけれども、おそらくここで説明すべきことっていうのは、そう言った、
0:19:00	差があってもですね、
0:19:04	こういったモデルを設計に用いて問題がないよっていうことで、一つは今大賀さんが言われたように、主たる入力について、スペクトルで見たらほとんど差がないし、等価線形の方がほぼ全周期体において、
0:19:19	ご指摘になるとか、或いは表層地盤というのは例として入力としてはもう見ていないので影響しないですね、そういった観点での説明っていうのもできるというか、最終的にこれを設計に用いて問題ないですよっていうのを説明するような趣旨であることに照らし合わせればですね。
0:19:36	そこら辺が結論として明確になるように、
0:19:39	すべきでありそれに結びつくような説明のロジック展開というものを、心かけた方が良いのではと思いますけれども、この点をご主旨理解いただけますでしょうか。
0:19:51	はい。日本原燃の大瀬でございます。ただいまのご趣旨よくわかりました表層地盤のところでは若干差が出ているところというのがありますの

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	で、そういったところが設計としてのどういう扱いにすべきか影響がないならないというところをきちんとバネなり、
0:20:04	そういったところの設定との兼ね合いを踏まえて記載の方加えさせていただいて、その上でこの考察とあとはその次のまとめの所ですねこういったところでもきちんとそれを拾った記載の方にしたいというふうに思います。以上です。
0:20:17	院長の岸田です。はい。お願いします。続いて、浜崎ですキシノさんちょっといいですか。63ページの、今の話題だった件でちょっと
0:20:30	確認したいんですけども、先ほど来から反射だとかそういう話が出てるんですが、63ページ、上から二つ目のパラグラフ、表層地盤からの反射版の傾向って、
0:20:43	これ反射版厚さって言われてんですけどこれは後半の話ですか。北向きの話。波の話を一ぱいやってんですか。
0:20:50	日本原燃のオガセでございます。おっしゃる通りでして下向きの加工はの話というふうに考えてございます。
0:20:57	はい。規制庁浜崎ですちょっと、同じページ上から3行目上昇はなったり、販社んなってたりってということで、そこら辺ちょっと使い分けをしっかりともらいたいということ等、
0:21:08	あと、事業者の説明何となくわかるんですけども、例えばとか設計解析でしたら、そのレベルにおける
0:21:18	序章はとか後半の
0:21:21	分離、それぞれの飯田2Fなりの波取り出して、今回考察されてるような話って、もっとう、
0:21:31	ビジュアルに説明ができるかというふうに思うんですけども。
0:21:36	その点は何か考察されてるんですかこれ。
0:21:41	ちょっとあくまでも
0:21:42	オープン、要はインフラセーフだけの話、最大値の話だとかですねそれで今考察されてるのかなというふうにも思うんですけども、想定何かもう少し詳細な比較検討みたいなことをされてますでしょうか。
0:21:57	日本原燃のオガセでございます我々も最初系、この考察を深める上でですねこの上昇はとか硬派をきちんと分けた上で、やはり上昇は例えば大きくなる加工はあんまりこうほとんど効いてしまうとかそういうふうに分けてちょっと考えたいなというふうに考えていたところは、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:12	ところでございますただですねやはり今回逐次非線形解析でやっている以上ですねいわゆるはぎとり解析みたいなことをやれば上昇はとかこうは分けたりできるんですけどもそういったところがちょっと逐次だとどうしても、
0:22:24	できないなというところがございましたのでこのE + F ベースであとはその次の方に図とかでお示しております伝達関数ベースこういったところで考察のほうを深めていくようにちょっとさせていただいたというそういった経緯がございました。以上です。
0:22:38	はい規制庁ハバサキです逐次おっしゃる通りなんですけど、等価線形、
0:22:42	等価線形と逐次火セ今ここ比較なんですけど、等価線形については、そういった比較はできると思うんですけども、
0:22:54	日本原燃のオガセでございますおっしゃる通り等価線形ではそういったことができるかと思えますのでちょっと固定比較をできるかというところおそらく波ごとの差とかですねそういったところの話ではできるかと思えますのでそういったちょっとビジュアルできるようなところについては積極的に、
0:23:11	ちょっと追加で入れるようにしたいと思います。はい。
0:23:14	はい。規制庁浜崎です先ほど昨日からもう指摘ありましたようにですね
0:23:20	言わんとされていることは何となくわかるんですけども、もう少し説明性を向上させるという観点で、可能な範囲でですね、そういったビジュアルカーの方の検討をしてもらえればというふうに思います。
0:23:33	私からは以上です。
0:23:34	日本原燃のオガセでございますかしこまりました。
0:23:38	岸田さんすいません。はい。浜崎さんありがとうございます。
0:23:42	規制庁金です。続けますけれども、65 ページの考察についてもですねちょっと
0:23:51	理解が難しいところがあるので確認させていただきたいんですが、
0:23:56	65 ページの、
0:23:59	の目的というのが、上から5 行目ぐらいから、
0:24:04	書かれていますけれども、
0:24:06	46 メートルよりやや上部でせん断ひずみが極大となって、
0:24:12	その要因について考察を行ったという。
0:24:17	うん。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:18	その考察というのがその下のパラグラフ、3パラグラフ目から6パラグラフ名ぐらいまでですかね。
0:24:26	3パラ4パラは、S s のC1 を使って等価線形解析をやったら、
0:24:34	46メートルよりもやや上部、これは標高で48メートルぐらいだと思いますけど、
0:24:41	これも上下で、
0:24:43	応答に違いが出ましたような分子S S C市の特性によるものっていうような説明です。
0:24:50	D5パラメの
0:24:52	内容は、S s - P を使って等価線形でやったら、この48メートルの上下で違いは出ませんでしたよ。
0:25:00	うん。
0:25:01	6パラですかね。
0:25:03	S s のC1 の逐次でやってみたら、一つ目のS S C1 の等価とは違う結果となった。
0:25:12	雨であるというふうに書いてあってですね、結論を述べてるだけだと思うんでそれが理由のように述べられているというようなところがあって、
0:25:21	66ページの最後に、以上のことからっていう結論がですね。
0:25:27	下から2行目ですか。
0:25:29	ふうん。
0:25:31	地盤モデルの高次モードの周期特性が一致したことによるものである。
0:25:35	であるんですけど、
0:25:37	この結論は、もともとの考察の目的である。
0:25:41	48メーターぐらいひずみが極大になったことの説明になっているんでしょうか。ちょっと読み取りが足りないのかもしれないので、
0:25:51	もともとの目的に対するこの結論がどういう意味。愛を持つのか教えていただけますか。
0:25:57	やっぱり。日本原燃のオガセでございます。図をまずちょっと見ながらだと思うんですけども、ちょっとお待ちください。
0:26:05	阿比留。
0:26:08	67ページの図なんかをご覧いただければなんですけれども、今回の今言葉でもおっしゃっていただいております通り、真奈美とか、ケースに

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	よって、そのひずみが5位になるところが変わってくると、いわゆるここで書いている黒線とか赤線みたいなのところについては、
0:26:24	下に三角形になるような形でいわゆる一次的なモードで地盤が揺れますとしたら当然ひずみが大きくなりますので、こういった普通はこういう三角形的な応答締め応答というかひずみ分布を示すところがございますけれども、
0:26:37	一部だけSSCは σ 青線のものだけは層の途中で、こういった極大値が出てくるところだというふうになっております。これの理由は何なんだろうというのが今回の考察の趣旨目的というところがございます、
0:26:51	これが果たして何が影響しているのかというところを今回、まとめてきているところがございます。やはり下、普通に一次で触れるとしたが、大きくなるのに対してこういうふうに途中で大きくなるというのはやはり高次モードの卓越が、
0:27:05	大きくなっているんじゃないかというところのまず仮説を我々としては立てたわけがございます。その仮説が正しいかという。
0:27:13	いうところを、伝達関数ですとか、あと地盤応答の波を重ねてA層が逆転しているしてないというようなありますけれども、こういったところを見たところやはりこういったところで逆転、A層の逆転みたいなのが起きてるつまり高次モードの何ですかね
0:27:28	振動特性が卓越しているというところが裏付けがとれましたので、やはりこういった影響がこの津波によって沈みの卓越周期の深さが変わるといようなところに結びついているのだろうという、そういった考察をしたところがございます。
0:27:41	で、この影響というか考察としまして最後に書いております通りこれはじゃあどんな地震はでもそういうふうになるのかというところではなくて、やはりこの燃料加工建屋の地盤モデル、
0:27:51	これがこの時、相手にする地震はですね地震種類で卓越する周期、これとの一致してしその周期特性が一致したことによるというあくまで特異なケースであるというようなところを考察としてまとめたところがございます、
0:28:06	その特異なケースだというところを今回我々の地盤モデルの物性値に基づく伝達関数等を用いて、考察の方をしたという意味で地盤モデルの考察としては我々としては、できているのかなというふうに考えているところがございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:20	規制庁の岸野です。あまりご説明ありがとうございます。
0:28:23	ただですねやっぱり今の御説明って書いてある以上のことがちょっとよくわからないの説明ではあります。まずですね、もともとの仮説として、
0:28:36	5次モードの他、当貸確立するのではないかという仮説を立ててそれを実際にそうであることを検証しましたというご説明でしたけど、
0:28:46	高次濃度が卓越するという仮説はどこから出てきたのでしょうか。
0:28:53	もうちょっと、やや上の方でひずみが卓越する。
0:28:57	うわ10日のSSC1という組み合わせのときに出ていて、
0:29:03	それ以外のケースでは48、46メートル付近で、出ているということで、
0:29:09	48メートルとやや上で出ているもの。
0:29:13	ていうのはその等価とSS等価線形解析という解析手法とSSCWANという、地震動の特性の組み合わせがひょっとしたらよく影響してるかもしれないと。
0:29:24	もう読んでて思えるのですが、そういったことと関連があるかどうかわかりませんが、高次モードがこういうケースにおいて卓越するはずだという仮説を立てた背景って教えていた
0:29:38	はい。日本原燃のオガセでございますそういうふうな仮説があったのでそれを検証するという目的は変えた方がいいというところについては拝承でございます。今の気持ちとしてはですねこちらの資料の40、
0:29:50	ごめんなさい40違う、65ページですね、65ページの頭三行に書いてるところでちょっとすみませんわかりにくくて申しわけないんですがちょっと気持ちは書いていたところでございます。一般的には、やはり
0:30:01	一次モードによる応答が卓越してましたが大きくなるだろうとなるはずだというところで書いてまして、それに対しての背反事象として今回のSSCはんでこうなっているというところについて考察を行ったという言葉で書いてるのでそういった、
0:30:14	意味では書いていたところでございますがちょっとわかりやすいように記載のほうを改めさせていただきます。
0:30:21	規制庁の岸野です。
0:30:23	どうしてそういう仮説を立てたんですかっていう質問っていうのは、どうして高次モードがこの経営解析ケースにおいて、卓越すると思えたのかということ。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:35	です、なぜそういったことを聞いているかというですね、65 ページの3、
0:30:42	1 番目。
0:30:43	4 パラ目か。このことから、
0:30:46	ていう。
0:30:47	文章で、一次もドリーム高次モードの影響が支配的になった結果地盤に逆せん断が生じてあるんですけど、
0:30:56	何で高次モードの影響が支配的になったのかっていう考察がないんだろう。
0:31:01	また 65 ページの一番下の下線引っ張ってる業務ですね。
0:31:06	S S C 気に入られる 0.6 秒付近の卓越成分の影響が支配的にならなかった目であれたんす。なぜならなかったのかっていう、そのあたりが多分求められている考察なのではないかと、正直なところ思ってます、
0:31:21	そうなるんじゃないかという仮説を立てて、実際そうなることを確認しましたっていうそういうロジック展開ありだと思うんですが、だとすればその仮説ってのは何に基づいて立てたのかっていうのがまずあって、
0:31:34	何もないところからいきなりそういう仮説を立てて、ほらこの通りと言われているんですね。それってどういう意味合いを持っているのっていうことになるなと思いつつ今聞いているわけですし、
0:31:45	その辺りも考察ですね高次モードが支配的になったならないっていうのは何に基づくものなのかっていうのは、
0:31:52	もう少し、
0:31:54	深掘りして説明が可能なんでしょうか。
0:31:59	まず見解を教えてくださいませんか。
0:32:01	日本原燃の合わせでございます。すいませんわかりにくくなっておりました。現状まず我々の考えといたしましてはこのひずみの分布、先ほどのを見ご覧いただいていた 67 ページのような図のところ、
0:32:16	やはり途中 D 層が大きくなるとすれば、これはやはり下の方でいわゆる節と原みたいな話だと思うんですけども、高次モードが出てきた時には真ん中のところで腹が出て下の方ではちょっと収束気味になるというところがあるだろうというので、
0:32:29	高次モードの影響が考えられるという仮説を立てたところでございます。それに対しましてはそれにつきましてはちょっと確かに記載として

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	順番としてあまりちょっと見えないところでありましたのできちんと書くようにいたします。
0:32:41	で、またそれぞれの結論のところでは高次モードが支配的になったというのはなぜかというところについても、やはり地盤の特徴とその波の特性というところの両方が影響するものであろうってこれもまた仮説だと思うんでこれをきちんと書いた上で、
0:32:55	それが一致すれば、何ていうんすかね高次モードが卓越するはずだっていうふうなところがあってそれがデータを見たら全くその通りだったというふうなところになっておりますのでそこを、順番よくきちんとかみ砕いて説明すれば今岸野さんが、
0:33:08	わかりにくいというふうになったところについてはある程度
0:33:12	明確に説明できるのかなというふうに考えているところでございますちょっと見解まででございますが、以上です。
0:33:19	岸野です。はい。ありがとうございます。今ご説明いただいたということはそのような筋道で説明できそうな感触はもうすでに出ているということでしょうか。
0:33:32	日本原燃のオガセですそのような数字が来て説明は全く下ももちろんでございます。以上です。
0:33:39	院長の金です。はい、わかりましたそういうことであればですね、事業者の方でいろいろと検討したり、計画を練ったりして進めてきた結果ですので、
0:33:49	そのプロセスを丁寧に書き下していただければ説明性が増すのではないかと思います。
0:33:55	何か新しい検討を追加してということでは、必ずしもないと思ってまして、
0:34:02	考察について深掘りは、
0:34:06	量というか、
0:34:08	或いは言葉足らずなところを植えるだけでいいのかわかりませんが、
0:34:12	そこはちゃんとやっていただいきですね。
0:34:18	ここでのこういった差異が現れることについての分析考察を深めるというのが、この目的ではないと、先ほど申し上げましたようにですね、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:28	このような特徴が出てきたとしても、等価線形解析を用いて今後の地震応答解析や設計を使ってるわけでは、S S C位置なんかも含まれてきて今回のような、
0:34:41	やや特異かもしれないようなものが、計算結果に含まれてくるかもしれないけれども、
0:34:47	でも設計には有意な差がない、プレイヤー保守的なので問題ないっていうところまでしっかり述べるのが今回の分考察の目的かと思しますので、
0:34:56	それはそういった形で、結論、
0:35:00	まとめて、そこに至るまでの過程ってのはそこに結びつくような、説明を展開する。
0:35:07	べきだと思うんですが、それワ－そうでしょう。
0:35:12	日本原燃のオガセでございます先ほどの1個前の同じ考察のところと同じようにですねきちんと設計上、こういった応答になっていることを用いることに問題ないっていうところについて考察を受けて、きちんと記載するように、できると思いますのでそういうふういたします。
0:35:27	規制庁の岸野です。はい。
0:35:29	お願いします。
0:35:31	規制庁ハバサキです。すみません、まだ中に入りますって、ちょっと私も今の65ページに絡めて確認したいんですがというのは、
0:35:42	今回、62ページからですね考察を充実して、
0:35:48	されてるんですけども、
0:35:50	両括弧123という観点ですね、で、
0:35:53	両括弧1、先ほどフィルターの効果みたいな話のここと、両括弧3の高次モードの話。
0:36:02	それが相まって先ほど磯野岸野の方から言ってます。波と地盤のひずみの特性で最大値が出る位置が、
0:36:13	ていうのは、これかなり分析が難しいかなというふうに思ってますけれども可能な範囲で、分析していただければと思うんですけども。
0:36:22	ちょっとこの両括弧1と両括弧3の話って、別物なのか。
0:36:28	なんか、私はこれ、す。
0:36:31	両括弧1と3が相まって、今回の等価線形で、非層境界よりもちょっと上に、最大ひずみの分布は発生したのかなという。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:43	何となくそこら辺を、そうしてたんですけども、そこら辺事業者の見解はどうでしょうか。
0:36:49	日本原燃のオガセでございます。今ハバサキさんがおっしゃっていただきました通り、等価線形と逐次解析というところを(1)のところで比較検証というか比較をしているところでございますけれども、
0:37:02	やっぱり等価線形解析って、全時間一応の地盤物性を収束物性に基ついてやっているというところなんです、こういう、
0:37:12	何ていうかね地盤の固有ピークというものが非常に味覚に一時はここ20アボっていうふうに出るものだと思ってるんです。一方で逐次非線形解析というのは時々刻々で地盤の物性値も変わりますので、あんまりそういう一次、二次が明確に出てこない。つまり二次という、逐次非線形では、
0:37:29	フジノモード高次モードの影響というのは多少あったとしても他のモードでかなり打ち切りされて、結局のところは最終的にはその一次の市営変位みたいなのが最適になると。
0:37:40	いうところがありますので、やはり先ほど来より図でお示ししております67ページで青線が途中で出てきてしまっているというのは、等価線形解析という手法を用いたことによってそういうピークが明瞭に出るような解析をやったからだっていうところが我々としては考察として考えているところでございます。それっていうのは(1)の考察のところでもちょっと
0:38:00	そういった観点のところの、何ていうかねその地盤を全時間一緒にするか自己変えるかっていうところのことも書いていますので今ハバサキさんおっしゃったような(3)のところでもそういったところの影響があるんじゃないかっていうのは、
0:38:13	何ですかねつなげて記載するというのは誤った記載というふうなことができるかと思しますのでちょっとそこもつなげるように変えてみようかと思えます。はい。以上です。
0:38:22	はい。規制庁浜崎です。
0:38:25	結構というか、難しい。これ、分析になるかと思えますけれどもですね最終的には先ほど区長が申しましたように、とにかく現行の入力度評価っていうのは妥当であり保守できたっていうことがそこがメインなところなんで、
0:38:41	あまりそこ、今回の下、原因といいますか分析をもっと細かくやっていただく必要はないんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:49	やはり
0:38:53	何ですので、上手く着陸点を見椅子に定めてですね、考察の充実の方をしていただければというふうに思います。
0:39:02	あと、私からは以上です。日本原燃のオガセでございます今ハバサキさんおっしゃっていただきました着陸点という観点では、鉄筋に対しての影響ですとか反映すべき点そういったところだと思いますのでそこに
0:39:13	ちゃんと導けるような考察のほうさせていただきたいと思います。
0:39:18	はい。規制庁浜崎です。私からは以上です。鬼頭さんすみません。
0:39:22	岸野です。どうもありがとうございます。
0:39:24	今のハバサキとですねオガセさんとのやりとりで大場さんの説明で少し腑に落ちたところがあって、逐次だと、高次モードの影響が出にくいのはその逐次線形という解析手法の特性によるもので10日だと。
0:39:38	そこら辺、ちょっと違ってて少し上の方で出るんだっていう辺りですね、何となく少し分かったような気もしていて、
0:39:49	ちょっと説明、あんまり考察は取りする必要はないけどもって言いつつですね、定性的な大きくなるかもしれないにせよですね、
0:39:59	そういった解析手法の特性とか、或いはそれと地震がある特性を持った地震後の組み合わせによってこういう傾向が出やすいっていったところについて、
0:40:09	多少た定性的な人生をある程度、考察を付け加えることができるのであれば、それちょっとご検討いただきたいなというふうに思って聞いておりました。
0:40:21	ちょっとご検討の方お願いしたいと思います。
0:40:24	はい。日本原燃のオガセでございます。これまでの岸野さんとハバサキさんのご指摘踏まえまして総合的に最終的な設計の反映事項という観点でまとめさせていただきます。
0:40:35	院長の岸田です。
0:40:37	はい。
0:40:37	それで、前回からの変更点に関しての確認は以上ですが、ちょっと資料の説明性の向上或いは治療としての完成度の
0:40:50	向上という観点でですね、ちょっと確認したいことがございます。少し前に戻っていただきたいのですが、22ページをお願いできますでしょうか。
0:41:05	はい。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:06	それで、22 ページの文章の中ほど、2 パラグラフ名。
0:41:14	だと思いますが、
0:41:16	速度構造データを比較すると 9 メーター付近で境界が認められ、-20 名、28 メーター付近においても認められることからっていうことで、
0:41:27	23 ページの、まず二つで、さらなる分析をしているように見えるのですけれども、
0:41:35	23 ページの上の方の図を例にとってちょっと確認をしたいんですが、
0:41:42	ここでは 9 メーター普通、
0:41:46	うん。
0:41:46	境にして、上の層と下の層で、
0:41:51	まずに整理をしたということなんですが、
0:41:55	ここに至る、
0:41:58	過程として、
0:42:00	9 メーター付近に境界がありそうだっていうのをどこかで目星をつけて、この図に来ているか。
0:42:08	もしくはとにかくどこに境があるかちょっとよくわからんけれども、とにかく図をしてみたところ、図化してみたところ、この
0:42:18	23 ページの上の図によって、どうも 9 メーター付近に境界がありそうだというふうになっているのか。
0:42:24	説明の流れとしては、どちらか教えて。
0:42:31	日本原燃のオガセでございます実際これ検討といたしましては速度境界を作るときには、まさにこの V s の傾向のところを見比べてみた上で、9 メートルにありそうだという見込みをつけた上で、その上で本当に 9 メートル上下どのぐらい、
0:42:47	上下でどれぐらいずれるかというところをこういったグラフでもってやはり 9 メートルのところピタッと大体の境界があるなというところを設定しているというところでございます。
0:42:57	町長の岸野です。わかりました。ということであれば、何か別の根拠で、9 メーター付近、境界がありそうだ。
0:43:04	見込んだ上で、この図に持ち込んでるわけ。
0:43:08	22 ページの文章にも、そのような文章があるんですがそれはどこ京都府に速度境界が認められていう。
0:43:17	向こうの図を見ればそれが読み取れるので、
0:43:21	24 ページの図を見と思いますね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:24	90 図が 5 本ぐらい並んで、9 メーター付近はっていうと、
0:43:28	一番右端のボーリングはちょうど色が変わるようなところで引かれてそうかと思いますが、
0:43:35	このところは全部ピンクのところにとんと 9 メーターの線を引っ張ってて、そしてここでそこで境界が認められる。
0:43:41	わからないんですが、どういう根拠に基づいてこういう前提を立てて、
0:43:47	して、そこからスタートしているのか教えていただきます。
0:43:51	少々お待ちください。すみません今データの方確認いたします。
0:44:18	日本原燃のオガセでございますお待たせして申し訳ありません、こちらのボーリングの図をですねすみません後ろの方で参考 3 というふうにつけておりますそれを少々お待ちください。114 ページに該当します。
0:44:34	これらのボーリングのこの P S 検層の結果が今回の 5 本分あるところでございますけれども、それらのところの折れているところ必ずしも全部のところまで V P まで折れていくかとかっていうところはあるんですけれども、
0:44:45	おおよその穴をですねこういう横並びで見えますと大体この T M S L でいきますと 10 メートルよりちょっと下辺り、この辺で折れているということが各校から大体の傾向として見てとれるところがございますので、これが先ほどの一番最初の
0:44:59	9 メートルの速度境界を作る上での仮設といいますかそういったところの 1 度目のフィルターというようなところで考えていたところがございます。
0:45:10	院長の岸野です。114 ページ以降のデータを睨んで、
0:45:16	9 メーター付近に速度境界が認められるという説明に繋がっているということなんですけど。
0:45:23	説明上、
0:45:26	ので、この 114 ページ以降で、谷本付っていったことは一切出てこないわけですが、これは、
0:45:33	これですね、特にそんなことを書き起こさなくても、十分伝わるわかるはずだっていう認識のもとでの説明を、
0:45:41	されているということよろしいですか。
0:45:44	日本原燃の合わせでございます。一度その仮設で 9 メートルを仮置きしたというところは確かに書いていないところではございますけれども、一番最初の説明のところでございますけれども文章のところで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:56	何ページのこれ、1日。
0:45:59	23ページですか23ページのとか、22ページの文章のところで記載しているものとしましては、今ほど申し上げました五つのこのP S検層のデータを見た上でというところで、
0:46:10	書いているところでございます。ここで真ん中辺りの2パラ目の3行目あたりですね、速度境界の設定について速度構造データを比較するとというのが正しく、先ほどのP S検層データを見ているというところでございますけども、
0:46:24	これを見てもと9メートル表、付近において速度境界が認められるというところで書いているところでございます。
0:46:32	院長の金です。わかりました。説明としては前段の方に、
0:46:38	速度構造データが複数えられていることから、ということでもってここをこの資料の中からそれを探し出して読んでくださいよってという説明をされているということと理解しました。
0:46:50	そういうことですね、3パラグラフ目最後にですね49メートル付近で接続認められられないとかですね、こういった説明に対応する図は、
0:47:01	どこを見ればいいのかという説明がないんですけども、これは12行目に書いてあるように、
0:47:07	速度構造データ
0:47:09	複数やられているということをヒントにこの資料の中から該当するものですお知らせという説明になっていると思ひまして、
0:47:15	端的に言いますけど、非常にわかりにくいね、いろいろ作るとして、
0:47:21	いえ、これは予定に行きたい。読解力を期待して、読ませるというような作り方をされるとですね、非常に読み込むのに時間がかかる。
0:47:31	で、かつ、こういったものを一つ一つ確認していったら、ヒアリング同じ時間あっても足りないという状況になりますので、
0:47:38	ここは、
0:47:39	もう一度読みつての、読む立場に立ってですね。
0:47:45	ちゃんと説明すべきことは何か、どういう考えなのかとか根拠は何かっていうのを明確にしていきたいと。
0:47:54	思います。
0:47:56	そういう例でいきますと、また22ページの中程の文章に戻りますけれども、
0:48:02	23ページの図を、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:05	見ながらです。
0:48:06	上層の平均値に対する変動係数等仮定の平均値に対する変動係数が、
0:48:13	主に小さくなる標高として9メートル-28を設定したと。
0:48:18	ということなんですけど、23ページの図を見ますと、変動係数は小さくなる。
0:48:25	このグラフ。
0:48:27	左側0に近づく方だと思うんですけども、どうもそういったところで読み取っておらず、
0:48:34	どこで読み取っているのかというのはちょっと文章ともズーISA動かれておらず、
0:48:42	それと、特に小さくなるっていうのが、どうしてそれでもって速度境界、ここだって定められるのかっていう、
0:48:50	よくわからないんですけど。
0:48:53	こういったところがですね、
0:48:56	私はわからないんですが、この資料を作成された方以外、原燃としては理解されているということでよろしいですか。
0:49:08	はい日本原燃富樫でございます沖田さんのおっしゃるところ理解しました我々少しこの資料を作りながらですねやはり議論をしながらちょっと進めていって、
0:49:20	完全にみんなが交差っていうわけではなくてある程度議論を進めていく中で作っていっているところもございましてそういったところでの少し
0:49:30	作り手のところで少し簡略してしまっているといったところが今日のご指摘に繋がっているというふうに思っておりますので、今一度ちょっとさらな目で見、見さしていただいてその
0:49:43	何を言ってるのかっていったところが少しわかりやすいような形の方ですねもう一度内部の方で精査の方さしていただきたいというふうに思います。
0:49:53	内野木曾です。はい。そのような対応を
0:49:57	やっていただきたいということなんですけど、ここで説明している内容は、図の
0:50:03	どこを見て、どう読み取ればいいのかというご説明いただけないんでしょうか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:11	はい。日本原燃の大瀬でございます今ほどおっしゃっていただいたところが、この 23 ページのこの変動係数の分布というところであると思います。こちらですけれども確か日本語、
0:50:22	わかりにくくてごめんなさい変動係数がともに小さくなる標高というふうに言ってますが、これはですね行っているところがこの 23 ページの図でいきますと、赤線と青線両方とも小さくなる場所というような観点でございます、今ほど岸野さんが例示いただいたような 9 メートルよりもちょっと下とかちょっと上っていうところにいきますと、
0:50:42	それというのは赤が良くても青がちょっと大きいか、青が逆の逆も私なりというところでございます、実質、ここで見ているのはこの赤と青がクロスする深さ、こちらをこの速度境界の深津。
0:50:55	そして、上にも下にもどちらにも整合性がいいものとして今回設定しているという意味でございますちょっとその辺は言葉先ほどのトガシが申し上げましたのわかりやすい資料づくりというところも踏まえましてわかりやすいような表現の方に修正をさせていただきます。
0:51:12	46 です。はい、ありがとうございます。ので、クロスするようなどころっていうところに、どんな意味合いがあるんですか。
0:51:20	クロスするとそこが境界になるっていうのがよくわからないんですけど。私なりに理解したところでは、9 メートルっていうところにまずターゲットを置いて、
0:51:32	その上の層と下の層とで、V s の平均値を求めて、V S 平均値からの差分を、この変動係数という形で深度方向にプロットしていったところ、
0:51:45	大井清、城層については、14 メーターから下におりていくと 10 メートルから 9 メートルにかけて、或いは 9 メートルから 8 メートルかけてぐっと、
0:51:55	差分が大きくなって、上層の平均値から明らかにかけ離れてくると。
0:52:01	同じく赤い破線、点線は、下の行、4 メートルから 9 メートルまで、平均ちいささほど変動係数は変わらないまま来てるんだけど、
0:52:11	9 メートルを超えた辺りで変動係数が急増して、明らかに下の層と差分が見られると。
0:52:17	で、この両方睨んだ時に、明らかに素子が V s の観点で変化するのが 9 メートル付近だから 9 メートルにしましたという、そういうことかなと理解したんですがそういう理解でよろしいでしょうか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:30	まさしく日本原燃のオガセです。今の岸野さんがおっしゃった通りの方法で確認をしてそういったところに9メートルのところでは新、境界を置いているというそういうところの考え方でございます。
0:52:41	はい、わかりましたそういうことにしたら理解できます。それで、ちょっと
0:52:48	経営者の中でいろいろ議論して、結果こういう文章になってるというようなご説明だったんですけども、今ですね我々もここ1年以上こういった内容について議論してる関係で大体いろいろ想像力、
0:53:01	働かせれば内容は理解できそうな感じがしますが、審査を終了した後に、公開されてこの資料を見る人っていうのは、内容を理解している人よりも自然してない人の方が、当然多くなりますので、
0:53:14	そういった観点でいきますと、多分今の説明の内容だったら、よくわからない。
0:53:19	ですね、わかっている人間がわからない人から問い合わせを受けたとき、一つ一つこれはこういうことだっていうわけにもなかなかいかないので、これはやっぱり読み手のことをちゃんと考えてですね。
0:53:31	今期は何で何を説明しようとしているのかっていうのがちゃんと伝わるようにですね。
0:53:38	ええ。
0:53:39	説明というのをちょっと考えていただきたいと思っていますので、こういった箇所がお金もないかっていうのはもう事業者みずからですね資料前提を確認していただいて、
0:53:49	最終提出までにはきちんと適正化していただきたいと思います。
0:53:54	今日、今挙げた22ページ以外にもですね、結構ありますので、
0:54:00	それはちょっと事業者みずから精査して、適正化していただくように、
0:54:04	お願いしたいですが、対応可能です。
0:54:07	はい。日本原燃富樫でございますこれまでもご指摘いただいている部分の内容のところだというふうに思っておりますので、例としましては精査の方をしているところで、
0:54:18	森岡ですけどやはりこういった部分で、まだされてない部分があるといったところで認識して、本日認識いたしましたので記者さんおっしゃる通り最終提出に向けてはこういったところをですね、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:29	もう一度フェアな気持ちの方で読み返してですね、内容の精度の向上と いったところを図っていきたいというふうに思いますのでよろしくお願 いいたします。
0:54:37	院長の岸野です。はい。これまでも何度か同じようなことをお伝えして きたつもりですがけれども、改めてですね、一般の人が見てもわかるかど うかってというような観点も入れながらですね、わかりにくいところがない かって言ったら、
0:54:51	もっとちゃんと全体的に見ていただければと思います。
0:54:55	私からは以上になります。
0:55:02	規制庁の竹田です。その他、耐震建物 08 について確認はございますで しょうか。
0:55:13	よろしいでしょうか。よろしければ、兵庫県の方から修正方針について の説明と、特会情報がなかったかの確認をお願いいたします。
0:55:26	はい。日本原燃のオガセでございます。本日いただいたご指摘、ご指摘 といたしましてはまず全体のところでございますけども考察ですとか物 性値の設定ですとかそういったところの根拠とか理由とかそういったと ころ、
0:55:37	そういうところを一般の方でもわかるような形でわかりやすい資料の方 を作るといところでこちら全体に見通しての再修正の方かけさせてい ただきます。あとはですね言葉の定義加工は序章は定義の明確明確化で すとか言葉のそろえ方そういったところについても、
0:55:53	あわせて修正の方させていただきます。これらの修正につきましては、
0:56:02	と最終的な考察の部分に対しての部分の内容としましては、基本的に、 最終的なその設計を、に用いる設計モデルの妥当性といったところに対 してどうなのかといったところの、
0:56:14	うんで考察の方をまとめるような形の方で収束していただきます。
0:56:20	なお本日不開示情報の発言はございませんでした。以上でございます。
0:56:28	規制庁の竹田です。ありがとうございます。
0:56:32	それでは次の資料の、あ、すいません。
0:56:37	あ、規制庁カミデです。竹田さんに質問なっちゃうかもしれないですけ ど、何か最初に話をしていた修正箇所だけじゃなくて何か、
0:56:48	レビューだったり、
0:56:50	云々かんぬんみたいな注文つけてたと思うんですけどそれは個別のパー トじゃなくて一番最後に聞きますっていう話でして、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:59	全体への、
0:57:03	そうですね確認の時に聞くかなと思っていたんですけども資料ごとにやっぱり、作成担当者レビュー担当者は違うと思いますので、ですね資料ごとに聞こうと思いますが、
0:57:15	すみません、ちょっともう一度他の資料への展開がないかですとかあとはこの資料の修正にあたってのレビュー者がどなたか、そこまでちょっと説明いただいてもよろしいでしょうか。
0:57:31	はい乳井土橋でございます。まさしく冒頭にオガセの方から最初にありました通りでございます
0:57:38	その資料の全般的な展開といったところに関しましてはやはりその資料のわかりやすさっていったところに対してもう少し今一度ですね作り手等という見て側が読み手側の方がしっかり
0:57:52	一般の方々っていったところの視点に立ったとしてもですねこの資料がわかりやすいかどうかというような視点に立ってですね、今一度全体的な資料に関しまして、内容の方みたいというふうに思ってるのが全般的な事項でございます。
0:58:06	当該資料に関しましては最終的なレビューに関しましてはオオガキの方が担当してございますので、沖の方に対してしっかり我々の方としましても、内容のご説明して野瀬しっかりとしたレビューができるような形の方で対応していきたいというふうに思っております。以上でございます。
0:58:29	はい、清城野タケダです。ありがとうございます。
0:58:33	すみません。規制庁上出です。
0:58:36	最初の方の話で、
0:58:40	耐震、00シリーズの方ですね申請書の地盤の支持性能で兵庫表をつけるとかつけないとかっていう話をしましたけど、その点について、
0:58:53	説明いただけますか。今後どういうふうに進めていくのか。
0:59:00	はい。井上根橋でございます。ちょっと地盤の今支持性能側のところの基本方針のところがですね少しこの補足説明資料の方を一部読み出すような形の方展開が少なくなってるかというふうに思っておりますのでそちらの方に関しましては、
0:59:15	どちらの方でですねしっかりとした図表関係の方を入れるのかといったところを、地盤申請のグループの方でですね確認を実施しまして、適切にそちらの図の方が何かどちらかの資料にはちゃんと明記するような形

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	の方で対応の方をしていきたいというふうに思っています。以上で ございます。
0:59:34	あと、規制庁カミデちょっとすみません聞き取りにくくても、もう一度 資料を、どの資料をどうするのか、もしくはその検討するんだったら、 どういう検討するのかを、もう少し説明いただけますか。
0:59:49	はい。日本原燃富樫でございます。こちらの方の
0:59:54	地盤モデルの図表関係に関しましては、現在補足説明資料側に図表 関係の方が今あるような形になってございます。すいません。
1:00:06	規制庁深見です何の表とか、あと補足説明と言われても 00 も補足説明 資料なので、ちょっともう少し明確に説明いただけますか。
1:00:21	はい、日本への投資でございます。今、資料でいきますと、本日も説明 しております耐震建物 10 番の方の地震応答解析モデルのごめんなさ い。
1:00:33	もう四、五千寺口先生、08 の方の地盤モデルの方の物性値の設定のた ころで、解析に用いる諸元表というような形のところで、別紙の 1 の、
1:00:46	1 の 19 ページ、または 18 ページの方に一番モデル関係のものがついて いるものになってございます。
1:00:53	一方で基本方針の方でございます。地盤の支持性能でございますけども こちらの方に関しましては、こちらの補足を逆に読みやすいような形に なっておりますちょっと親と子の関係の方が、今、
1:01:07	ちょっと混在してるような今、並びになってございますので、ですので この部分に関しましてはこちらの方の別紙についている、今、1-1-18 であったり 1-1 の 19 ページに記載されているモデル関係 2 行に関しま しては、
1:01:23	親の方でございます地盤の申請の側に地盤モデルの方を入れるような形 の方で対応の方を図っていきたいというふうに思っています。説明 は以上でございます。
1:01:35	規制庁のカミデです。今の説明だと、別紙
1:01:41	地震 00 の別紙 4-2 の支持性能で、
1:01:46	補足説明を呼び込んでいるところがあるって言われましたけど、基本的 に申請書になる、これ説明資料ですから申請書から、
1:01:56	そこを呼び込むっていう対応はしてなかったと思うんですけど本当にそ んなところあるんですけど。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:10	日本列島が主でございます。すみません、先ほどの呼び出しっていったところは言い過ぎましたこちらの方の基本方針側のものは、基本的なその考え方、
1:02:22	長金成氏、近傍のデータを用いて地盤モデルを設定するというような記載のみにとどまっているものになってございます。それを受けて、正確にいきますと地震応答計算書でございますけどもこちら添付の方の経産省の中に、
1:02:39	こちらの方の補足説明資料で記載している地盤モデルの方が今、添付されているというような状況です。
1:02:47	この部分の、基本方針側のところが、今、方針のみの記載となっておりますので、この部分に、地盤モデルの表、
1:02:59	側の方にも転嫁駅、基本方針はですね、基本方針側の方にも、
1:03:07	ちょっとすみません、記載。
1:03:10	する方ちょっとすみませんちょっと今即答は。
1:03:14	少し他の電力のですね、並びも考えて基本方針に入れるのがいいのか、
1:03:21	テンプの方の基本方針側の地震応答の解析方針の方に入れる方がいいのかといったところ、そこは少し横並びを見て、何かしら通訳の方の基本方針の方に展開しようというふうに思っておりました。以上です。
1:03:39	あと、規制庁カミデです今日の紙、今日の資料として00を使ってるわけじゃないんでちょっと空中戦みたいになっちゃってますけど。
1:03:49	地盤の支持性能の基本方針で、入力地震動の算定に用いる地下構造モデルっていうのは、その中に、6-1 図っていうのに示しも合わせて線源が、
1:04:02	あって、これの孤島だとするともうすでに基本方針にモデル図入れてるんじゃないかと思えますけど私の見る場所が違いますかね。
1:04:30	日本原燃富樫でございます。申し合わせがちょっと私も今比較表の方で物を見ていて、今お答えしていたところがあって、
1:04:41	確かに図表関係の方が今こちらの方で呼び出しになっていますので、
1:04:46	その辺ちょっとこちらの方地盤の申請の側の資料の方を再度確認した上でこのものが載ってあるのであれば基本的には現情報本部側の方にも、基本方針側の方にも記載してございますので特段の、
1:05:00	変更は不要だというふうに考えております。ただしもし載ってない場合に関しましては記載といったところは、追加なりし、適切な場所にちょっと反映するような形の方で対応したいというふうに思います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:15	あと、規制庁カミデです。そもそもこの話を最初のヒアリングでした時は地盤の物性値の話で、許可申請書に書いてあるですね1とあと、
1:05:26	記載されてない物性値は
1:05:29	基本方針の方に全部載せますと言ってるんだけどその表がまだついてませんと、その別紙4-2の中にはついてませんよっていう話で、
1:05:40	だから今回の話でいうと今、別紙、地震00の中にある基本方針っていうのは、
1:05:50	図表が載ってる条文もあれば、もしくは記念関係とかを割と表が載ってたりして、地盤のところは、何か表な率は
1:06:01	抜いているっていうことだと思うんですね。
1:06:05	そもそもだから、
1:06:08	00を作る上で比較表を作る上で、図表をどう扱うかっていう全体の考え方があって、載せるのかこういうものをするこういうものは載せないっていう考え方がもしある。
1:06:20	あるはずなんですけど、それに沿ってるかをまず確認してもらわないといけないと思っています。
1:06:28	その上で、話にあった
1:06:34	物性値については補足説明資料見ても出てないんですね。先ほどの地盤モデルは補足見れば今の段階では、とりあえず、
1:06:44	どんなものかっていうのはわかるんですけど、物性値に関しては00を見ても、当小さい補足説明紙を見ても、
1:06:54	補足説明見たらただ申請書に書きますって書いてあるだけで、どんなことをやってるのか、いつまでたっても把握できないっていう状態ですから、そういうものをどうするかっていう、どちらに書くのか、どうやって示すのかということだと思いますけど、
1:07:11	問題として認識ちゃんとできてますか。
1:07:17	はい、乳井根橋ございます。まず1点目の認識といたしまして、今、この共通00関係のところの比較表において、図表関係で、添付してちょっと添付してなかったりというような形の方がございます。
1:07:32	ちょっとすみませんちょっと私の方が後、
1:07:35	規則的なものとして、こういったものが載せてっていったところが、今ちょっと即答できなくて大変申し訳ないんですけどもその部分に関しましては確認した上で適切に次回お出しするものにつきましては社内のルールに則った形のところで図表の関係の方を

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:51	添付するかどうかといったところをご説明させていただきたいというふうに思います。この上で現状
1:08:00	出生時関係のところの説明できていない物性値の関係のところを、どこで整理するのかといったところがもう一つのコメントだというふうに考えてございますので、ちょっとこの部分に関しましては社内で、
1:08:14	こちらの方の地盤申請の側の方と少しその部分の取り扱いといったところは協議させていただきましてしかるべき部分のところをちゃんと説明できるような形の方で展開させていただきたいというふうに思います。以上でございます。
1:08:29	はい。規制庁上出です。特に最初のその比較表の作り方っていうところが、
1:08:36	今日のヒアリングで、その全体に展開するものもしくは前全体として、確認するものっていうことで、地盤に限らず耐震に限らず、
1:08:48	全体でっていうことでちゃんと見直した方がいいところだと思いますので、きちんと対応をお願いします。
1:08:58	はい。においに飛ばしてございます本日いただいたコメントに関しましては、全社大の方に共有させていただきましてしっかりと全検体に定期に統一がとれる形の方で修正のほうを図っていきたいというふうに思いますのでよろしくをお願いします。
1:09:15	はい。規制庁カミデです。
1:09:18	その点を、他の条文から耐震化に波及してくるっていうことも、ちゃんとあると思うんでその辺のキャッチアップも含めて、体制をとっているようなことは聞いてますので、
1:09:30	きちんとやってくださいという。
1:09:32	私の方からは一応、
1:09:42	規制庁の竹田です。その他、よろしいでしょうか。
1:09:48	よろしければ次の資料の確認に進みます。
1:09:53	次の資料は耐震建物の10番ですね。こちらの資料につきまして、説明の方お願いいたします。
1:10:01	はい。日本原燃の岩瀬でございます。耐震建物の10番の減衰定数コンクリートのRC部分の減衰定数に係る検討の補足説明資料につきまして、前回のご指摘踏まえまして修正してきました点につきまして概要を述べさせていただきます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:15	修正点といたしましてはページでいきますと 79 ページのところでございます、
1:10:21	6 ポツ 4 のところでございます。この燃料加工建屋の減衰定数に間対する考え方というところでまとめているところでございます。要旨を申し上げますと 80 ページの図にもございます通り、燃料加工建屋という、
1:10:35	燃料加工建屋というのは他の建屋とは側面の地盤の分布状況が違うというところがございます。一方でその他の建物につきましては地震の地震観測記録を用いたシミュレーション解析とか、
1:10:47	そういったものを持ちまして減衰定数が、一般的に R C の構築物で使われている 5%、使ってよさそうだとこのところを確認しているところですが、先ほど述べましたこの表層部分の地盤の物性という過去のものが違うというところがございますので、
1:11:01	このシミュレーション解析の知見をそのまま適用するのはちょっと難しいというところを最後のパラグラフに書いてございますが、そういったところの背景がございまして、ございますことを踏まえまして、最終的にはこの燃料加工建屋については、設計上の保守性として、3%の方を適用するというふうな考え方をしているところを記載して参りましたというところがございます。ご説明以上です。
1:11:26	ありがとうございます。それではこの資料につきまして規制庁側から確認がありましたらお願いいたします。
1:11:34	規制庁カミデです 79 ページってところが今回追加されてきているんですけど、
1:11:43	なかなかよくわからないなというところで、一応その話を整理すると、もともとはモック数については既工認で 3%を適用していて、
1:11:58	再処理は 5%でやっていて、
1:12:02	最初の
1:12:04	滑り出しとしては、真木工認を踏襲してっていうところで、MOX は 3%にしてたと。ただ、さすがにそれだけでは、
1:12:16	という話で、少し技術的な説明もちゃんとしてくださってということだったと思うんですけどまず議会としては合ってますかね。
1:12:28	においてトガシございます。カミデさんのおっしゃる通りでございます。
1:12:33	はい。規制庁、上出です。
1:12:36	それで、言ってしまえば

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:40	うん。割と決めの問題みたいなところがあって、記名のところを機構人 っていうことではなくて、もう少し技術的なところで、
1:12:50	きちんとするっていうぐらいのものかと思いましたけど、
1:12:54	79 ページの話をする、
1:12:58	何かMOXの
1:13:00	場合、その周りの地盤とかも考えると、
1:13:04	何か3%じゃなきゃ駄目なんだそこまでは書いてないですけど何かそん な感じの流れになっていて、少し最初の出発点からするとですね、大 分、
1:13:18	話が飛躍してきてるんじゃないかっていう、感覚的に思ってるんですけ ど、その辺どうですかね。事業者としては、
1:13:27	はい。日本インター大橋でございます。どちらかというと、先ほど、こ れ、檀のところのちょっと地盤関係のところを、何か一生懸命書いてし まっているのでちょっとそう受けとめられているところはあるのかもしれ ないんですけども、
1:13:41	我々の方としてはどちらかというとMOXの場合ですと、当然新增設と いったところがあって、地震監査記録がないですと、再処理の場合です と、基本的に新観測記録を使っていますと、
1:13:53	他のものであれば地震観測記録のものを、大体、同じような趣旨に立っ ているので、適用できるんじゃないかといったところもあるんですけど も、ただちょっとMOXの場合ですと、建物自体の
1:14:06	規模感であったりそういったものは別に最初と変わるものではないんで すけども、ちょっと愛状況といった部分が少し変わっているといったと ころが第1回の審査の中でももう少し見えてきたところもあったので、
1:14:20	地震観測記録で5%っていったところの妥当性を示してるものっていっ たものをそのまま使うっていったところは少し難しさがあるっていった ところを少しMOX、こういうのを事例として、今回ご説明したかった といったところが趣旨です。ですので
1:14:37	地盤モデルといったところではなくてどちらかというと地震のシミュレ ーション解析で、一つ5%っていったところの妥当性を説明する部分が 少し欠けているといったところを、
1:14:47	ご説明したかったといったところが趣旨でございます。
1:14:52	あと、規制庁カミデです。確かにシミュレーション解析のあるなしって いうのはわかりやすく、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:00	そういうものすべてが説明できれば 79 ページにあるようなことを一生懸命、いきなり出すようなこともないのかなとは思いますが。
1:15:12	単純にシミュレーション解析だけの話をすると、今回新たに建てる勤怠だとか、あと最初の建物も全部、
1:15:23	建物構築物 5% でやってるものすべてが観測記録あるかっていうとそうではないと思いますし、その辺ってどうなってますかね。
1:15:36	はい日本原燃の藤でございますまして、その部分を少し我々私どもシステム、懸念があったので、その部分の懸念のところ、やっぱり最初の場合ですと、比較的、
1:15:48	大規模掘削を、地面の方から掘削してそこに埋め戻しを配置していってるといってようなところまあ大体似たような、
1:15:59	建屋の状況であったりとか周辺状況になっているといったところがまずあるので、一つ代表的な建屋でのシミュレーション解析結果って部分を適用していくといったところは、
1:16:10	我々の方としては今現状問題ないのではないかなというふうに思ってるところです。ただ一方で少し MOX っていう部分が増設で後々建てていってるところがあって、
1:16:20	もし今回、次山の部分で、今、最初に大規模掘削の方で、オープン掘削でやってるのに対しても 9×掘尾やってるって関係上のところで、
1:16:31	周辺の地盤が残ってるっていった部分が少し対象地が少し毛色が違うっていう部分があったのでちょっとその分を、前段の方で、そういうような状況が違いますよねっていったところをご説明したくて、
1:16:45	前段の部分でそういった、周辺状況が再処理とは少し異なっているといったところを
1:16:51	書いてると、いうような部分でございます。
1:16:56	あと、規制庁カミデです。掘削って話だと、その市賃貸だとかあとは、清。同じく施設の、
1:17:06	保管庫貯水槽みたいなところ、これはもう複数と同じような、
1:17:12	工法になってるんじゃないかと思いましたがそれと MOX って違うんですけど。
1:17:19	勤怠とか女性層の部分でいきますとどちらかというと、埋め込みが浅いっていうのもあるんですけども、基本的には
1:17:29	オープン掘削で掘削はしているという状況ではございますはい。
1:17:37	と、規制庁カミデでそれは、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:40	あれですよ最初に施設のメインたちとは別の時期に掘っているもので、
1:17:47	同じ大規模を大規模というかな、なんていうんすかね。
1:17:52	掘削範囲の、
1:17:55	黄色い狭いだけでその説明って成り立つんでしたっけちょっとよくわからないんですけど。
1:18:06	どちらかとオープン掘削でやります等どちらかという、
1:18:11	周辺の状況といったところがめぐっ際には目戻しの方で戻していくっていう状況になってくるので時代背景は違うんですけども、そういった部分で埋め戻す薄ものっていったところは
1:18:26	埋め戻しの方が周りの方が支配的にあるっていったところが再処理と緊対側といったところは似ているといったところがございます。それに対してMOX側っていう部分に対しては今、
1:18:39	小売で実施しているので、邪魔が少しメインにあって少し再処理の経路とは違うかなといったところがありましたので、今回、
1:18:49	MOX特有っていうものに愛想説明をおいた方がいいのかなっていったところでちょっと、
1:18:56	神谷さんが冒頭でやった、変にちょっとひねり出しすぎって言ったところにちょっと行き過ぎているのかもしれませんがそこにちょっと焦点を挙げさせていただいた説明の方を実施しております。
1:19:07	ただ
1:19:08	現状を申し上げますとやはり最初神野さんがおっしゃった通りでございますやはり目標はやはり既認可で
1:19:16	3%を用いていたっていったところが出発点d+やはり少しMOXこういうのっていったところで今回こういうようなお話をさせていただいているところでございますので、どちらかという、
1:19:28	合わせ技で本来我々としては一つ記載させていただければよりも、それでは、既認可の方で3%を用いていました。で、その中で、やはり今回
1:19:41	さらに少し、
1:19:44	値、地震観測等もないっていったところがあったりとかするので、保守的に3%にしましたっていったところで、既認可の3%と、地震監査記録がないというようなところでご説明の方が、
1:19:59	その次山がどうのこうのとかっていうとやはり少しコンクリートの物性値の話をしているのに土の物性値お話をしてるっていったところもう少

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	し我々も内部でいろいろ議論してる中でやはりわかりづらさとかもありますので、
1:20:12	できればその二つが相まって3%なんですっていうような説明を、
1:20:18	させていただいた方がやはりちょっと今議論させていただいてる中でもいいのかなっていうふうにし少し思ってるところでございます。
1:20:29	はい。規制庁カミデです。で、様々で言えば、何でもともと3%でやってきたんですかっていうことが、そこの理由がしっかり説明できればそれだけでも、
1:20:42	事が足りるっていうところなんですけど。
1:20:46	3%、もともと3%にしてたっていう話もつつ、話の理由があんまり明確に説明されてなくてその辺で、何かわかってますか。
1:21:01	はい。
1:21:01	において飛ばしてございます。
1:21:04	正直申し上げて、やはり当社の場合のランナーのサイトの場合ですと、やはりコンクリート減衰は今回の改正結果でもついている通りで5%と3%ってほとんど変わらなくて、多少と地盤の方の影響の方が大きいといったところが基本的に、
1:21:20	特徴でございます。そういった中で、そのMOXを申請するにあたっては、1度少しヒアリングの際には少し一度頭式をさしていただいていると思うんですけども、
1:21:30	その当時に、原子力発電所、新設の物件をやっているものが、一つの事例として3%で少しやっているといったところもございまして、どちらかというところ
1:21:45	当時の時代背景を考慮してMOXの場合ですと、3%にしたっていったところが
1:21:53	ちょっと当社の方で当時設計をやっていた人間の方とかにも確認いたしましたけども、そういったところで、技術的にこれ3%じゃないといけないうって言ったところで3%にしてるっていうよりは、基本的にあまりコンクリートが変わらないで且つ、
1:22:07	資金の発電所で新設で出されていたものが3%というものもあったといったところをかんがみて3%にしているといったところでございます。
1:22:18	ですので技術的にこれっていったところでの少し書き物がなかなか難しいところがございましてその既認可時に3%にしているといったところが少しなかなか言いにくいといったところでございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:33	はい。規制庁カミデです。別にいいにくいような話をされていると受けとめていなくて、申請当時のサイトの状況をかながみて、
1:22:48	要は保守的になる、再処理でやっていた5%よりも、同じか保守的になるであろう3%で設計しますと決めたと。
1:22:58	一方でその時に、日本原燃として、最初には5%でやってるけど、そこに3%をフィードバックする必要があるかなしかっていうところも一応、
1:23:09	多分対外的には説明していなくても考えていて、それは先ほど言われたような理由で、あんまりコンクリートの減衰がきかないっていうところもあるし、
1:23:21	何か理由があって、別に再処理をわざわざ3%でやるような、必要もないって判断してたっていうことだと思いますけどそういうことでいいんですね。
1:23:34	犬塚正田さんまさしくおっしゃる通りでございます。
1:23:39	はい。規制庁カミデです。それで、今回においても、
1:23:45	当時、保守的か同じぐらいであろうとしていたことは、実際、いろいろ検討しても、5%に対して3%で、保守的であろう、それが、
1:23:57	ちゃんと機器とかの影響とかへの影響も踏まえて、別に5%の方が厳しくなるようなことはないっていうところは、事実は掴んでるんですよ。
1:24:09	はいにおいで飛ばしてございます3%が被災できないといったところを確認しているところでございます。
1:24:18	はい。規制庁神ですそういうことであれば、
1:24:23	そういった形で当時の考えを、
1:24:29	募集して今回もまたその本質、保守性なり、どうせみたいのところはちゃんと確認しててと。
1:24:38	いうことで、79ページにあるような説明ってのは非常に
1:24:46	もう説明要るか要らないかレベルで、MOXの特徴みたいのが書いた方がいいのかもしれないですけど、考えの中心にはないっていうことで、
1:24:58	そういった説明にしないとですね、結局、
1:25:03	79ページの話をする、家、先ほど富樫さんも言ってましたけどなるべくそのMOX固有の特徴をあぶり出そうとしてっていうので本来の目的と違うことで一生懸命細かいところに行って、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:19	そうなるとう結局じゃあ緊対どうなるの、貯水槽どうなるのみたいな話に どどん波及してしまうんですけど、それは全然本質的な話ではないの で、
1:25:29	きちんと自分たちの考えを、昔こうしてたからいいんですっていうだけ ではなくてですね、きちんとそういう決めの問題もエンジニアリング的 な決めなんだとエンジニアリングジャッジなんだと。
1:25:42	いうところでちゃんと技術的な部分も含めて、決めの話をしてもらえれ ばいいんじゃないかと思えますけど、事業者としてはどうですか。
1:25:54	はい、日本の投資でございます。
1:25:57	ありがとうございます。今おっしゃられた、ちょっと我々もちょっとこ ちらの方、いろいろと社内で議論していてちょっとこの記載ぶりってい ったところを少し頭をすごく悩ましていたところで、何かメール少し入 り込んでるなったところがございましたので、
1:26:11	ちょっとその部分に関しましては、今日神谷さんカラーのをいただいた ご意見も踏まえまして我々としての当初の考え方で当初の考え方におい てどうして3%にしたのかといったところで、その部分に関しては先行 のといったところも見ながら3%にしたんだ。
1:26:27	その3%をするにあたっては基本的に最初に、どの話題もあったけども 基本的にその部分の技術的な妥当性っていったところで当社の場合だと 永井齋藤の方で、コンクリート減衰といったところの強度っていうところ 小さいところ確認した上で、最初の点改正は、
1:26:42	内でさらに今回の申請するにあたって、一応念のため5%3%といった ところでMOX建屋に関して、事象と解析を実施したけども結果とし ては両者変わらず、3%の方の保守性が確認された以上をもって基本的 には、
1:26:58	MOX建屋としては、当初の設計、当時の設計を踏襲する上で、3%と しているみたいな形の方で、記載の方は、展開していきたいというふう に思います。以上でございます。
1:27:14	はい。規制庁カミデです。
1:27:17	79 ページに関して他規制庁側からも何か
1:27:21	あればお願いします。
1:27:24	私は大体今の話かなとは思いますが、何か補足なり、追加があればお 願います。はい。規制庁尼崎です。今、富樫さん口頭で言われたので 多分おわかりになってるかと思しますので、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:37	ただちょっと、この資料自体ですね、これ事業所の方、十分周知し、わかっていると思うんですけども、材料減衰の話であったり、
1:27:47	逸散減衰の話であったり例えば燃料他、MOXの場合47ページぐらいまでですね、逸散減衰の比率だとかを考慮してそれぞれもご考慮しても5%でもいいですよっていうのを、
1:28:03	78ページまで言っていきなり79ページでこの
1:28:07	やっぱり3%にしますみたいな、この資料として非常にあやめような資料になっているというふうに思ってますので、やはりこの79ページを無理やり入れたのがその原因だと思ってますで、
1:28:20	従前の資料ですね、これ、周辺地盤の話、独立性の話って今年になってから出てきたんですけど去年までの資料を見ると、その、要は5%は妥当だけれども、既設工認の
1:28:33	設定を踏襲して3%にするっていうこれしか書いてないわけなんで、何で3%っていうところを我々求めた、その説明を求めたところは、
1:28:43	この79ページのような話じゃない、79ページの話ってのはこれ別、別の話です。富樫さん言われてるように、5%ってあくまでもやっぱり、
1:28:53	RCの、材料減衰の話ですので、79ページと相容れないところもあるわけだから合わせ技にはならないわけですので、先ほど
1:29:03	鳥羽さんや国の方から申しあげましたような趣旨でですね、ちょっと79ページの市内容をどうするかっていうのは、ちょっとこれは事業者の方で判断してもらおうんですけども、
1:29:15	最終的な目的方、そこは先ほど富樫さん言われたような趣旨での資料構成に
1:29:24	した方がいいんじゃないかなという、コメントといいますか感想です。
1:29:29	藤。
1:29:31	私からは以上です。
1:29:34	はい、宮崎でございます。ありがとうございますこの79ページの取り扱いに関しましてはちょっと今、ちょっと内容としては、
1:29:45	少し迷路に入り過ぎている部分がございますので、ちょっと削除させていただいて本来の、今、先ほど私が申しあげた趣旨のところを記載するの方で展開して
1:29:56	3%といったところを用いているといったところの理由をですね、少し記載するような形の方で、修正の方さしていただきたいというふうに思います。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:12	規制庁の武田です。その他、定常場から副主事についての確認はございますでしょうか。
1:30:27	はい。よろしければ、今小田部さんからご説明ありましたけれども、本資料の修正方針とばっか異常がなかったかどうか。
1:30:38	あとは、他の資料の、
1:30:41	展開が必要ないかどうか、あとレビュー者ですね、これを踏まえて説明をお願いいたします。
1:30:49	はい。日本出野トガシでございます。まず深井知事の方の発言としてございませんでした。資料の修正方針としましては先ほど私が冒頭で申し上げたところといったところを今回の79ページのところの記載をですね、底面的に見直すような形の方で展開させていただきたいというふうに思っております。
1:31:07	データの資料への展開としましてはちょっとここは少し個別資料の案件の議論でございましたので特段ないというふうに思っております。私先ほどありました部分でのそのわかりやすさといったところに関しましてはこの資料も当然でございますけど対象で、
1:31:21	見さしていただいて内容の精査といったところは、図っていききたいというふうに思っております。以上でございます。
1:31:31	B社はオオガキの方になります。
1:31:36	はい、わかりました。規制庁カミデです。他の資料の展開で、
1:31:42	これは個別指導だからというお話ですけど、79ページの話みたいところは割と、どの資料ってわけではないですけど、現年割とやりがちで、
1:31:56	こちらが確認したことの趣旨をとらえずに、一生懸命作業はするんだけど、方向性がずれたまま、
1:32:06	作業を進めてしまって、その結果、時間もかかった上に、全然違いますねと言われてた。
1:32:17	振り出しに戻るっていうところがありますんで、
1:32:22	他の、具体的にこれとこれとこれっていうことはないんですけど、何かありがちなミスをしているし、こちらの確認の趣旨をちゃんととらえられていないっていうのは全体としての、
1:32:38	反省事項としてあると思いますから、その1例としてですね、とらえてもらえればと思います。
1:32:49	はい。上にトガシでございます。すいません私の

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:52	認識は塑性浅はかでした。はいおっしゃる通りの内容だというふうに思いますのでこちらの方も全社大でこういう事例があったといったところは展開させていただきまして
1:33:05	他のものっていったところに対しても、認識のそごっていったところがないような、この部分に関しましては今電車の取り組みとして既設さんの方に、コメントの趣旨の確認といったところをですね、
1:33:18	電話連絡等も踏まえながら進めているといったところで、実施しているところがございますけども、やはりこの部分で少し足りなかったというところもございますので、そういった部分に対しまして電車代の方に展開したいというふうに思います。ありがとうございます。
1:33:36	規制庁ハバサキですちょっと関連するのかな地主応答解析の経産省の警察じゃない基本方針のところですね。
1:33:47	確か減衰の項目の記載があって、MOXに関しては3%っていうことで、記載があるんで、そこは既既工認に合わせて
1:34:01	3%にしますみたいな話だけでも、ある意味いいんですけれども、今回この資料の改定を踏まえてですねやはりそこ、
1:34:13	どこまで細かく、その基本方針の方に書くかっていうのはあるんですけども、やはりそこ、ちょっとわかりやすくですね、記載の方、方針書の方もですね、記載してもらいたいというふうに思います。
1:34:26	よろしいでしょうか。
1:34:28	はい。日本インター小橋でございます。基本方針側のところに関しましては浜崎さんおっしゃられた通り、既工認をベース踏襲して3%でなお、当社の部分でその次バーンどちらとコンクリー円錐といったところは技術的にちゃんと聞かないよといったところを確認した上で、
1:34:44	その妥当性を確認した上で3%を保守的に設定してるなりのですね、そういう部分を追記した形のところで地域の方に記載する中期や、補足のほうに記載するような形の方で展開させていただきたいというふうに思います。
1:34:59	はい。規制庁浜崎です。そうですね紐付けたり備考欄に拡大。そこは事業者の方で考えてもらえればと思いますけれども、淡々に行き、既工認を踏襲しただけではなくて、ちょっとやっぱりそこには工夫をしてもらいたいと思います。以上です。
1:35:15	はい、日本伝統がでございますといたしました。
1:35:22	規制庁の武田です。その他、よろしいでしょうか。
1:35:28	よろしければ次の資料の確認に進みます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:32	0 椎葉耐震建物 11 ですね、こちらの資料につきまして、原燃の方から説明をお願いいたします。
1:35:40	日本原燃キョウダでございます。耐震建物 11 の材料物性のばらつきに関する検討について紹介いたします。まず大きな修正点としましては、
1:35:51	鉄骨トラスの取り扱いにつきまして、それを支持する R C 部のばらつきの影響を確認する旨、追記させていただいております。また、機器側との繋がりがわかるようなフロー図等、
1:36:02	追加させていただいております。また今後申請を実施する建屋についてですが、参考資料でお示ししております建屋物性のばらつきの影響を確認含めまして、基本的には今回と同様の資料構成を考えておりまして、
1:36:17	今後の予定もわかるように、別紙リストの方も追加させていただいております。以上よろしくをお願いいたします。
1:36:30	規制庁の竹田です。それではこの資料につきまして規制庁側から確認がありましたらお願いいたします。
1:36:40	規制庁カミデです。10 ページ目のフローで細かい点だけなんですけど、
1:36:47	機器。
1:36:49	配管系の設計を地震力っていったところで床音スペクトルっていうのはあるんですけど
1:36:57	網羅的に示してもらおうという趣旨ですから 4 日オートスペクトルだけじゃなくて、時刻歴で評価するものもあれば、
1:37:09	二次応力の評価として、変位を持ってくるっていうこともあると思いますけど、そうであれば
1:37:19	きちんと書いてもらってっていうことです。もし、スペクトルだけでいいと、もし判断してあるのであれば、その上でここで説明いただければと思いますけど、お願いします。
1:37:34	日本原燃キョウダでございます。この辺についてはちょっと確認させていただきまして、もしあの辺の方も使ってるようであれば、その旨も追記させていただきたいと思います。
1:37:47	以上になります。
1:37:49	もう、規制庁カミデですか、加速度時刻歴起因。
1:37:53	についてはどうですか。
1:38:00	日本原燃キョウダでございます。基本的に建屋側から機器の担当部署の方に、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:08	家族ローン地獄列記を渡すようなことをしておりましてそこでたとえ、土岐側で時刻歴を用いて、評価を実施しているといったところでございます。
1:38:25	日本へ飛ばしてございます補足させていただきますが、まさしく真鍋さんおっしゃったところで、その使うものってすいませんちょっとこの部分キーワードへの少し確認が少し足りなかったのかもしれない、ちょっとその部分で全部書くていったところが少し配慮が足りてなかったの、
1:38:40	亀井さんのご指摘を踏まえまして木川の方で評価する内容に沿った形のところで、各使う値の方を、ここの部分にも記載して、より明確になるような形の方で対応したいというふうに思います。以上です。
1:38:58	はい。規制庁、上手です。ちゃんと書いてもらうってということでお願いします。スペクトルを使わずに、加速度で評価する機器もある。
1:39:09	あとは、すごい少し1期とか二期とかだったと思いますけどあるとは聞いているので、
1:39:14	その上で、このフローだと、米印でばらつきを表控除するってあるから、
1:39:24	解析条件の設定のところでもばらつきは考慮されて、
1:39:29	地震応答解析を行って、それが下に繋がっているんですけど、
1:39:36	実際機器側に渡すものって基本係数の加速度だけ、
1:39:43	木川ではそれをプラマイ10%拡幅をして、そういうものを、地盤物性のばらつき等もそこに含めて考えますみたいな説明だったと思うんですけど。
1:39:58	そういう意味でこのフローは、もうちょっと修正必要なんですか。
1:40:10	日本へ飛ばしてございます。地盤のばらつきの考慮っていった面に関しましては先ほど今、神谷さんがおっしゃった通りでございまして、基本的に基本ケースの時刻歴応答の渡して、機器側が床応答を作る際において10%の拡幅を実施するといったところの、
1:40:27	JRに基づく拡幅の考え方で設定しているという意味合いでございます。
1:40:36	そうですねそうするとその、
1:40:40	床応答スペクトル、
1:40:42	等々、
1:40:49	うん。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:50	あ、規制庁カミデです。なのであえて建物構築物の設計用地震力にはばらつきケースも渡してるし、けがは基本ケースだけですよってということなんですよね。
1:41:03	基本的にその設計として用いる内容としては、今神谷さんがおっしゃった内容ですね。はい。
1:41:12	規制庁上出です。であればそのこのフローでどっかでわかるようにすればいいと思いますし、
1:41:19	その上でなんですけど、
1:41:25	機器配管系で時刻歴評価しますとか応答加速度以外の応答加速度
1:41:31	拡幅するから、まあいいでしょうって感じなんですけど。
1:41:35	応答加速度のスペクトル以外で評価する機器に対して、このばらつきってというのがどう手当されるのかなってというのがちょっとよくわからないところなので、
1:41:46	それはもしかしたらこの資料っていうよりは、機器側の資料なのかもしれないですけどちょっと
1:41:54	両部もお話をして、きちんと示してもらえればと思いますけど大丈夫ですか。
1:42:02	はい。日本円トガシでございます。今高根さんからおっしゃった内容は、理解いたしましたので
1:42:11	資料というよりはどちらかというと機器側の方針の中でどう取り扱うのかっていったところに、先ほどの時刻歴みたいなものは記載の仕方っていうのは、検討するような形の方で、衣川の方に
1:42:26	申し伝えます。またちょっとこちらの方のフローに関しても、
1:42:30	その辺りがわかるような形のところ聞き方調整して
1:42:36	今日も少し見直しの方さしていただきたいというふうに思います以上です。
1:42:43	はい。規制庁カミデですよろしく申し上げます。私の方からはこの事業は、以上です。
1:42:54	はい。規制庁竹田ですその他、この種類について確認はございますでしょうか。
1:43:02	櫛引。
1:43:04	私の方からちょっと1点確認なんですけれども、
1:43:09	5ページです。
1:43:16	中ほどに、寄ってで始まるパラグラフって、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:19	建屋物性のばらつきは考慮しないこととすると。
1:43:24	記載があります。
1:43:26	その辺のプログラムで、参考として、建屋物性のばらつきを考慮した解析結果を示してその傾向を確認するとあるんですけども、
1:43:37	一応のための確認ですけど、この建屋物性のばらつきは、
1:43:45	その与える影響については次回以降の申請施設でも、
1:43:49	何らか確認をするという、
1:43:52	あと下、
1:43:53	意味から、そのため、今回の第1回申請施設について、そういう確認をしたので次回以降はもうそういった確認は一切しませんよということなんか。
1:44:03	どちらなのか教えていただけますか。
1:44:08	日本原燃キョウダでございます。
1:44:10	建屋物性のばらつきにつきましては今回、第1回申請の建屋と同様に、参考資料としまして、それぞれの建屋について、建屋物性のばらつきの結果もお示しする予定でございます。以上になります。
1:44:25	規制庁の木野です。はい、わかりました。
1:44:29	であるとですね、ちょっと、そうなんだろうなど。以前のヒアリングでもそういったご説明だったかと思imasのでそうだったんだそうだろうなど思いつつもですね。
1:44:40	どっちともとれるような書きっぷりになっていることもありますので、何らか次回以降の施設についても、何らかの検討はしますよというのは、
1:44:50	どっかで一言を入れといていただいた方がいいのかなと思う。
1:44:54	でいます。
1:44:55	ただ、やり方について今回、全く同じにするのか、或いは次回以降というのは施設も増えてきますんである程度グルーピングした上で、代表についてやるとかいろいろやり方あるかと思imasので、
1:45:06	方法は現時点で限定する必要はないと思imasけど、次回以降もちょっと検討しますよという一文を、
1:45:15	どこかに入れておいていただければと思うんですが、これは可能でしょう。
1:45:21	日本原燃キョウダでございます。ご趣旨の方理解いたしましたので、そ、その部分について一文加えたいと。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:29	思います。以上でございます。
1:45:32	都築です。はい。ちょっとご対応ご検討の方お願いします。私から以上です。
1:45:40	規制庁カミデです。今のところの、
1:45:44	次回申請なんですけど、
1:45:47	この資料も、
1:45:50	全建屋、同じように資料をつけるとなると、
1:45:56	どれぐらい。
1:45:58	の物量になるか、見込みってありますか。別紙 21 まであるようですが、
1:46:07	日本原燃キョウダでございます。
1:46:11	材料物性の、地盤の材料物性のばらつきの結果なんですけど、今回材料、地盤の材料物性のばらつきの結果につきましては、次回以降添付資料の方に、
1:46:23	格上げすることになりましたので、その部分については重複することになるので、第 2 回以降につきましては、その地盤物性のばらつきの結果ってというのはちょっと割愛させていただこうかなと思っておりますので、
1:46:38	その物量としてはそこまで多くはならないかなというふうに思っております。安里藪線の結果につきましては同様に付けるんですが、地盤物性のばらつきの少し、
1:46:49	ボリュームがあるような部分につきましては割愛する予定でございます。以上になります。
1:47:00	すいません規制庁カミデです地盤物性と建屋分せがあってっていうことであれば、まず地盤物性の話を、
1:47:11	する等、
1:47:15	地盤物性の話は、
1:47:19	第 1 回では、
1:47:20	申請書にどこまで書いて補足にどこまで書くのか。
1:47:27	2 回以降は申請書どうなって補足どうすんのかと、まず地盤物性に限定して説明いただけますか。
1:47:37	日本原燃キョウダでございます。まず地盤物性のばらつきにつきましては、添付資料の方にも、今回の補足資料の方にも、両方、地盤物性のばらつきの結果、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:51	載せるつ予定でございます。当初申請した際には地盤物性のばらつきといったところは、添付資料には出てなくて、補足資料の方でお示しするというところだったんですが、ちょっと
1:48:04	社外の方で話しまして、添付資料にも載せた方がいいのではないかといいところ、添付資料の方にも地盤物性のばらつきを、今回補正申請で追加する予定でございます。
1:48:17	それについて補足し、説明資料の方で、割愛するということもできたんですがここまですっとお示しし、していたものを少しバサッと、
1:48:27	削除するということもどうかと思いましたが、第1回申請につきましてはこのまま補足資料の方にも地盤物性のばらつきは、まだ1回7につきましては、残すつもりでございます。
1:48:39	ただ第2回申請に、建屋につきましては、添付資料の方に、
1:48:44	上の設定補足資料の方には、掲載しないようなことで考えてございます。
1:48:51	以上でございます。
1:48:57	はい、規制庁カミデですとりあえずは、
1:49:00	わかりました。
1:49:04	消してもっていう感じもし第1回も、干す補正が出てくれば綺麗にすればって感じもしますけどその辺は、
1:49:14	載せるにしてもな、何で載ってるかみたいな説明があればいいかと思えますので、とりあえず現段階で、
1:49:21	コメントないです。建屋物性の方はどうなるんですか。
1:49:28	日本原燃、キョウダでございます。建屋物性の方につきましてはまず、添付資料には載せない方針でございます。また、補足説明資料の方には、第1回申請につきましても、次回申請につきましても、参考資料の方で、同様に、
1:49:44	お示しする予定でございます。
1:49:47	以上になります。
1:49:54	はい、規制庁カミデです。ちなみに建屋部っすせ。
1:49:59	は、
1:50:02	ページ数的には、
1:50:04	そんなないからってことですか。今回も20ページぐらいで一応まとまってるってことなんですかね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:50:12	日本原燃キョウダでございます。常盤物性のばらつきにつきましては代表はとしてS s - Aのみの検討を実施しておりますので、ページ数としてはさほど大きくならないかなというふうに考えてございます。
1:50:24	以上でございます。
1:50:29	はい。規制庁カミデです。
1:50:32	何で聞いたかっていうと、
1:50:36	工事課を踏まえたときに、
1:50:39	申請書もそうですけど、とにかく資料が膨大になって、
1:50:47	すま確認委員のテーマが、別に増えてもいいんですけど、
1:50:53	すごいコストがかかるようなことになるんじゃないかと思っていて、もともと再処理施設っていうのはそういうところがあるので、
1:51:02	なるべく類型化をして効率的にっていう話をずっと前からしているところなので、
1:51:10	そういったところで、考え方としては旧計算とか検討の基本方針をまず示した上であとは結果だけっていうこともできると思いますから、
1:51:23	この資料を、
1:51:25	竹井に限らずですね、
1:51:28	今後そういうふうに効率的に、
1:51:32	進める工夫っていうのがする余地があると思いますので、そういうところをきちんと考えてもらった方がいいんじゃないかと思って今回聞いたというところですので、
1:51:47	この資料に限らずですね、事業者が、
1:51:52	なるべく実績に進めたいということであればそういった検討してもらえればと思いますので、よろしくお願いします。
1:52:03	日本原燃黒田でございます。
1:52:05	ご趣旨理解いたしました。社内でも調整して効率的に進められる部分がありましたら、少し考えて、資料の方を整理したいと思います。以上でございます。
1:52:27	その他規制庁側から確認はございますでしょうか。
1:52:35	よろしいでしょうか。
1:52:37	それでは日本原燃の方から、主ん資料につきましてはの修正方針と、不開示情報の発言がなかったかどうか、あとはレビュワー者及び他の
1:52:49	資料への展開がないかどうか、説明をお願いいたします。
1:52:56	日本原燃キョウダございませ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:52:59	やっぱりご指摘いただいたポイントとしましてはまず機器側の方針の中でスペクトル以外で使用しているものがあるか、確認しまして、SPEC T以外に使っているものがありましたら追求するようにしたいと思います。
1:53:13	また次回以降の建屋についても同様の検討を進める旨をどっか1分、お示ししたいと思います。
1:53:22	また次回以降で、効率化できるような部分がありましたら、効率化して資料の方を整理したいというふうに考えてございます。
1:53:32	はい。
1:53:33	非開示情報につきましては、ございませんでしたまた、私はへの展開といったところでございますが、企業への等主要展開の方を、
1:53:43	したいというふうに思っております。
1:53:47	また本資料のレビュー者としてオオガキになります。以上、よろしくお願いたします。
1:53:57	はい、規制庁の竹田です。ありがとうございます。
1:54:00	よろしければ、次の、すいません、規制庁カミデです。
1:54:06	世界最後の次回以降の、
1:54:09	進め方っていうかなるべく法律的にってところで、要は結局次結局は次回以降、何を説明するんですかっていう話を、
1:54:21	耐震建物01っていう資料で示してくださいってのを、ずっと話をしているんですけど、
1:54:30	なかなか改訂版が出てなくて、延び延びになってるところですから、
1:54:37	その辺、
1:54:38	きちんと全体像を示す資料なので、ちゃんと作って出してくださいってことなんですけど、今、館野耐震建物01の進捗ってどんな感じなんですかね。
1:54:54	はい。尿見通しでございます。
1:54:58	神谷さんからご指摘をいただいているのは重々承知しておりまして社内で整理の方を進めているところでございます今状況的なところ申し上げますと、今竜巻のところその整理っていったところにちょっと時間を要しているところでございます、
1:55:15	その部分の整理が今まだちょっと進めているというような今状況でございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:55:22	ですので資料としてお出しできるっていったところが、現状、急いでやっているとではございますけども、早くて来週の前半ぐらいになるのではないかなっていったところで今、作業の方としては進めているというところでございます。
1:55:39	この部分でご指摘いただいているところは社内でも伝えているところでございますので本日もそういった部分のコメントがあったというところで、急ぎちょっと対応するような形の方で、
1:55:51	調整を図っていきたいというふうに思います。以上です。
1:55:56	はい。規制庁、カミデです毎回同ような回答をいただいているので、結局できたら、見せてくださいってということだけです。あと適切に、
1:56:07	そちらの社内のレビューをしていただいて、きちんと整理したものを出示してもらおうと。
1:56:14	いうところでお願いします。私の方からは以上です。
1:56:24	規制庁武田です。その他、よろしいでしょうか。
1:56:31	はい。それでは次の資料の確認に進みます。
1:56:34	次の資料渡し建物 06 ですね、こちらの資料について確認、説明をお願いいたします。
1:56:44	4 行目のキョウダでございます。
1:56:46	耐震館野 06、隣接建屋の影響に関する検討についてご説明いたします。
1:56:52	まず修正点としましては、その参考資料としてお示ししているの地盤インピーダンスの検討につきまして、地盤ばね定数に変換した際の数値の比較という観点で考察のほうを追加しております。
1:57:06	またMMRを線形材料として設定していることにつきまして、点検範囲内にとどまっているといったね考察追加しております。
1:57:16	また共通の考え方としまして、地中に持っている労働につきまして、地盤に置き換えて解析を実施している旨について記載の方を修正させていただいております。
1:57:26	以上よろしくお願いたします。
1:57:32	はい。規制庁の竹田です。ありがとうございます。それではこの資料につきまして確認がありましたらお願いいたします。
1:57:43	規制庁カミデです。
1:57:47	この手話も先ほどと似たようなところがあって、
1:57:51	3 ページとかに、もうこれは設工認の添付書類に、計算書を載せますってということだったんですけど、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:58:03	そうなると今ついてる別紙2の1っていうのが、
1:58:09	最終的にはいらなくなるっていうことなので、その辺どうするかってのは先ほどの資料とあわせて、
1:58:17	こういうものも考えてもらうっていうことでいいんですかね。
1:58:24	日本原燃キョウダでございます。まず現状としましては、こちら補足説明資料の方で、詳細な検討の方を書かせていただきまして、添付資料に格上げになるんですが、そちらの方は、
1:58:37	記載の方をスリム化するといいますか、抜粋したようなものを載せるといったふうに考えております。これは次回以降の建屋についても同様で、
1:58:48	添付資料で要点の方を説明して、補足資料の方でしっかり詳細の方を説明するといったようなことを考えております。以上でございます。
1:59:00	はい。規制庁カミデです。
1:59:03	そうすると、ちなみに
1:59:08	添付書類に、申請書に書くところのポイント、補足説明で説明するポイントっていうのはそれぞれどういう切り分け形になってますかね。
1:59:25	日本原燃キョウダでございます。まず添付資料の方で、記載する内容としましては、それぞれの建屋ごとの別紙で示しております。応答結果、
1:59:38	またその応答倍率を用いた耐震評価の方を実施して、検定比1.0以内に収まっているといった旨を記載する予定でございます。
1:59:49	また補足説明資料につきましては、共通的な考え方、隣接の検討委員か。
1:59:55	に関する共通的な考え方ですとか、結果に対する詳細な考察の方を記載する予定でございます。以上でございます。
2:00:07	あと、規制庁カミデです
2:00:10	3ページ目の一番下の、一方のところからですけど、一方という、このことからですかね最後のパラ、こっから次のページに渡るまでの話、このパートで今、
2:00:25	話をされてたような、この補足説明資料の目的みたいなところが、きちんと書かれると位置付けがわかると思うので、
2:00:36	その辺り、記載の検討をお願いします。今は
2:00:41	何か計算目的で、何で隣接建屋やるんですかみたいな話が書かれてるんですけど、この辺は、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:50	逆に申請書にも書かれるっていうことですから、何かその申請書で書くこと、補足説明として書くことっていうことを、
2:01:01	それぞれの位置付けがわかるように、ちゃんと目的を書いてもらうってところが、大事だと思いますので、
2:01:11	もともとこれ、補足説明だけで説明されるっていう趣旨で、作り始めた資料ですから、そういうところがまだ残ってると思いますので、
2:01:23	記載を見直していただいてですね、きちんと整理いただければと思いますけど、よろしいですか。
2:01:33	日本原燃キョウダでございます。ご趣旨の方理解いたしました。補足と添付の方。
2:01:38	それぞれの位置付けがわかるような記載の方、修正したいと思います。以上でございます。
2:01:50	はい。規制庁上出です。
2:01:52	それであれですかね、隣接建屋、
2:01:56	の説明書が、
2:02:01	申請書に作ってそれはもうどの建屋も共通した考え方っていうことなんですかね。
2:02:10	日本原燃姜でございます。ご認識の通りでございますして、どの建屋も隣接の検討として、添付資料に付けるということを考えております。以上でございます。
2:02:24	はい。規制庁カミデです。隣接ないものっていうのはさすがにないんですけど、最初2施設によっては何らか近くに物があるっていうことなんです。たっけ。
2:02:40	はい。において飛ばしてございます
2:02:44	そういった意味でいくと、現状今、
2:02:47	例えば資料でいきますと5ページ目とかに配置図、記載させていただいているような、
2:02:54	部分がございますけども、こういう建屋、
2:02:57	ワー、基本的に今我々ところとしてはもうこれは笹に隣接の影響はないなっていうふうになっているものがございますので、そういった建物がある部分に関しましては、しっかりと隣接の小というものはこの建屋の方に設けさしていただいて、
2:03:12	こういった理由で隣接の影響はないですよといったところを書きたいというふうに思っているところでございます。以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:03:21	はい。規制庁、上出です。わかりました。その辺はちょっと細かいパートになるので今話をしてもって感じがしますので、とりあえずはわかりました。
2:03:32	と、それである、中身の31ページなんですけど、なお書きで、道道についての記載が追加になっていて、
2:03:45	説明されたことっていう、
2:03:49	のは一応イメージは駅員るので、こういうことなんだろうなとは思えるところなんですけど、
2:04:00	何か根拠というかですね、
2:04:03	文献なり、
2:04:05	何、何かしら検討なりの根拠を持って説明できないかと。
2:04:12	いうところで今の記載だと、こう思ってますっていう思いだけが何か説明されてるようなんですけど、もう少し傍証的な説明でできますかね。
2:04:48	規制庁少々お待ちください。
2:05:10	日本で飛ばしてございます。
2:05:13	阿部さんが冒頭最初の方で言われた多分文献等わあ、あまり我々ちょっと見たことがないので、多分なかなかその部分探すのは難しいのかなっていうふうなものがあります。
2:05:24	なので、何かこう、簡便的な、
2:05:31	こういう試解析かなんかで見るとか、そんなもの、何か解析的な、少し簡便な、
2:05:38	ものをやる以外何となくないのかなっていうふうに関、
2:05:44	思ってますちょっとこの部分に関しては、神谷さんのご趣旨のところでもう少し一定量菅野と航路等、何か一般論として何か、
2:05:53	その部分で補強する内容を追記して欲しいというようなご趣旨だというふうに思いますのでちょっと設計会社とも相談して、何だかんだその部分で、
2:06:06	補強材料の方を追記するような形ができないかといったところは検討させていただいて対応したいというふうに思います。以上です。
2:06:15	規制庁上手です必ずしも解析的な評価が必要かって言う、言うわけでもなくてよくわからないポイントで言うと、
2:06:30	なお書きから始まって堂々は土中に設けられた空間でありっていうこれは事実なんでそそうでしょう。建屋と比較して需要が非常に小さいっていうのも、これもわかりますんで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:06:45	地盤と一体となって振動するってところが、特に
2:06:51	何でそう思われたのかってところなんですけど、そこ、そういうところをもう少しみ砕いて説明、頭の中を説明してもらえればなと思うんですけど。
2:07:05	その辺はどうですかね。
2:07:09	日本原燃河瀬でございます。少しこれ我々の経験的な不足になってしまうんですけども、よく堂々と下の評価とかっていうと、どちらかというところと地中の変位につられて動くってようなものになっているので、
2:07:22	ですのどどちらかというところと、構造体が踏ん張ってるってよりは、土の変形によって、構造体が動くって話なので地盤の変形に沿った変形をするものっていうふうに、
2:07:36	一般的に少し解析とか見るとそういう傾向が強いので、我々の方として、これまでの知見を踏まえて、こういうような記載の方をさしていただいていたところでございます。
2:07:49	はい。規制庁、深見です。なので、今回新たにモデルをやるとか、そういう話ではなくて、これまで、
2:07:58	いろいろ堂々と建物の関係を評価してることってあるんじゃないかなと思ってまして、そういう一般的な結果から、
2:08:10	もう少し噛み砕いて、こういうメカニズムであったり、いうことでもうわかってるんだと、この一体となっておくことがわかってると。
2:08:22	いうことであれば別にこういう固有の振動があらわれにくいついていうところに、
2:08:29	ところの説明の補強になるんじゃないかなと。
2:08:32	思いますから、その辺りをもう少し説明できないかというところなんです。
2:08:42	日本原電ウラボヤシでございます。この趣旨としましては兼田さん、今おっしゃっていただいたように、
2:08:49	堂々とか地中埋設物ですので、建屋のように、地上に露出して自由振動、地震による自由振動を起こして、
2:08:59	その振動が底盤を通じて隣接に伝わるって現象より、中深度がないので地中の中で、
2:09:06	地盤と一緒に動くで得た顕著に垣見出すってことがないのかなというふうな一般論として、
2:09:13	考えてみました。以上です。
2:09:25	はい。日本円トガシです少しその部分今ほど申し上げたところで、少し

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:09:32	今日の文章を追記するような形の方で対応させたいと思います。以上です。
2:09:41	規制庁ハバサキです。ちょっと追加的に、コメントですけれども、
2:09:49	ドウドウのような地中構造物が土と一体となった挙動っていうのはある意味、土木といいますか、そういったジャンルでは
2:09:59	常識的な話というふうにとらえてますそれで、例えば先行炉の審査なんかでも、建物と労働、
2:10:08	或いはドドーッといいますかトレンチだとか取水量だとかあって、建物にはその水路等は隣接通の効果を見ないでも例えば取水量の検討どのような件、
2:10:20	中構造物の検討では建物の隣接効果を見ると、
2:10:24	というような、仕分けといいますかやり方をやられてると思いますので、要はその屋外重要土木構造物！！
2:10:32	の扱い、隣接における扱いみたいな話っていうのは、先行電力空の協力、市の方とか、相談されてですね。
2:10:43	隣接！！MOXの建屋にどうしても影響し得るっていうのはなかなか普通普通でも考えにくいんですがそこを
2:10:54	もっとよろしいといいますかきちんと説明いただくということ、それと、これは工事課になりますけど道路の新設、申請時にはその建屋の影響をどうするんだという話。これは今回じゃないんですけど、
2:11:07	そこら辺をきちんと整理しておいていただければというのが思うんですが。
2:11:12	趣旨、伝わりましたでしょうか。
2:11:19	はい日本列島してございます。成功例も踏まえたところでの道道の取り扱い方っていうところは当社の方でも少し調べていてこういったときのモデル化には入れてないっていうふうな形の方で確認はとれていますので、
2:11:33	そういったところも踏まえながら、もう少し記載の方として地盤応答の方に卓越するんだというような部分をですね、少し文章的なところで補強していきたいというふうに思います。
2:11:45	また浜崎さんからご指摘のあった部分の後段の方の、同等にとっての査定やっていったところに対しての影響検討といったところはここは認識してございますので

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:11:57	次回申請以降の中でですねしっかりと説明できるような形の方で対応していきたいというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。
2:12:04	はい。規制庁宇井です。はい今回、前者の方の説明の方、多分そんなに難しい話ではないと思いますので、わかりやすい説明の方をお願いします。以上です。
2:12:16	すいませんコサクです。
2:12:18	ちょっと
2:12:20	ピント外れかもしれないんですけど、
2:12:24	今回の再処理の
2:12:26	定着と周りの
2:12:30	飛来物防護ね。
2:12:31	との、
2:12:33	関係での話で鉛直に、その周辺のう。
2:12:37	こういった構造物が影響してっていうなことがあったと思うんですが、
2:12:43	それ、それは、今回、建屋への影響云々ということは関係ないような気はしつつですね。
2:12:51	周辺の地盤に置き換えていいとかっていうことでもないような気がしてて、
2:12:58	そこら辺こういう場合にはこうこういう場合にはこうっていうようなことがあるんじゃないかなと思うんですけど、それは今の話で、ある程度丁寧に書いていくことで、是正されるようなもんなんですかね。
2:13:21	はい。日本原燃富樫でございます。コサクさんのご指摘の部分でA4のR1周りのところであれば、
2:13:32	私が徳石井系統といったところの、地盤の地盤じゃ基礎の形式が異なるといったところも容易には上がっているかというふうに思いますので、そういったところで、やはり構造形式っていったところもあたりとかその規模感といったところもあるというふうに思っています。
2:13:48	そういった部分でいきますと、この燃料加工建屋に対しての、銅像の出勤費でいったら圧倒的にも全然小さいっていったところと、あと周辺の地盤の
2:14:01	規模感に比べて堂々って、ある意味本当に地中に埋まってる、一定のものみたいなものになってくるのでそういったところでいくとやはり規模感が少し違うといったところもあると思いますのでそういった部分に対して少し丁寧に、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:14:13	記載の方さしていただくこと燃料加工建屋に対しての地盤、討論取り扱いといったところをご説明できるかなというふうに思っていますので記載を丁寧にさせていただきたいというふうに思います。以上です。
2:14:26	1 コサクです。内容は大体わかってましたけど、今書いてあった場所ってもう燃料、燃料加工建屋に限定した記載場所なんですっけ。
2:14:41	そして、
2:14:42	はい。日本円トガシでございますこの部分は建屋に対しての共通の場所に書いてある通りでございます。はい。
2:14:51	そうです。わかりました。そうであればその共通したことで言えば幾つかのケーススタディ
2:14:57	で決済というか、整理をして、もう例のないような感じで書いておかないと、今後、再処理の方での他の建屋とかって言った時に
2:15:08	論点漏れが生じる
2:15:12	原因になっちゃうかもしれないので、その点を配慮しながらまとめていただければと思います。以上です。
2:15:19	はい、日本で飛ばしてございますご指摘踏まえたところで
2:15:23	機会を充実させていただきたいと思います以上です。
2:15:28	規制庁浜崎です今、記載を充実して鳥羽さん言われてるんですが、先ほど古作調査官が、の話ってというのは、燃料建屋燃料確保だけじゃなくて
2:15:40	4 ページの隣接の評価を後段の方でやってますけれども、そこでは今、労働は無視してますよねだからそこで、
2:15:53	ネットの話のときには、鉛直応答に対して同等のモデル化は影響したけれども、今回はしてないという理由は、やはり記載が、
2:16:02	必要かなというふうに思いますので、そのことを富樫さん念頭に置かれているという理解でいいんですか。
2:16:12	はい、日本のトガシでございます。濱崎さんありがとうございます少しちょっとこの部分の記載にとらわれて今お話していたところがあったので、確かにA4の方の隣接の部分といったところもあるのでそれは少し個別事案のところに、
2:16:26	今のモデル化っていったところでの影響の有無といったところをしっかりと記載のほうを充実させていただきたいというふうに思います。
2:16:36	はい。規制庁浜崎ですお願いします。阿藤。
2:16:41	説明があったときにそれ確認したいと思います。以上です。
2:16:52	規制庁の竹田です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:16:55	75 ページでちょっと確認させていただきたいんですけども、
2:17:04	マーメイドロックを線形材料として扱うということで、今回説明書きを、※がフクイ※書きでですね、追求してくれているんですけど、
2:17:16	そもそもマンメイドロックを、
2:17:19	R C の足し平均のスケルトンカーブの第 1 折れて、
2:17:23	2、
2:17:25	適用この 1 を適用してるということなんですけどそもそもマンメイドロックにこの式の適用っていうのは可能なんですか。
2:17:37	現況でございます。おっしゃいます通り、マーメイドロックの線形の確認といったところで、
2:17:44	一つの指標としまして弱になっております大小 0 点といったところが、コンクリートのひび割れ、
2:17:52	といったところを示す部分になりますので、同様にコンクリートといったようなところで一つの支障地表として、今回、使用させていただいております。以上になります。
2:18:10	はい。規制庁、竹田です。一つの指標ということではあるんですけど、今回、適用者式が、事件を用いることが適切であるかどうかというところは設備や、
2:18:26	は追求していただきたいと思うんですけど、
2:18:29	今の記載だと、適用しましたそれだけになっているので、もうちょっと、技術的にこれが適用可能という根拠を追記していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
2:18:41	はい。宮村タカハシでございます。こちらの方の式の適用に関しましては第 1、こちらの式にも記載してございますけども、基本的にコンクリートの強度に依存して、広い強度出すような式になってございますので、そういった部分でいきますと、
2:18:56	マッシュなコンクリート、能部分でございますけども、コンクリートの強度に依存したものとしてのヒヤリ共同といったところの適用性っていうところでは、問題ないのかなというふうに思っておりますので、そちらの方の式の位置付けを記載した上で、
2:19:11	参考として使ってますといったところを注記の方で展開させるような形で採用させていただきます。以上です。
2:19:20	規制庁の竹田です。わかりました対応の仕方について理解しました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:19:25	今回のものっていうのは1例ではあるんですけど、先ほどからの議論もそうなんですけれど、モデル化とかを考える上で、それを適用する。
2:19:38	上でのその根拠とか、そういった説明っていうのが、
2:19:42	最近は大分改善はされてると思うんですけど決め打ちでやられてるところも結構あったかと思いますので、他の資料とかも確認してもらった上で、設定の根拠だとか、そういったものの説明が抜けているものとかっていうもの。
2:19:56	につきましては、説明の方は追記はお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
2:20:04	日本原燃久保田でございますご趣旨理解いたしました。記載のほうを充実したいと思います。以上になります。
2:20:12	規制庁の竹田です。お願いいたします。私からは以上になります。
2:20:18	その他この資料につきまして、確認はございますでしょうか。
2:20:22	はい。規制庁浜崎です。私もちょっと子供NMR絡みの話で、何点か事実確認したいと思うんですが先ほど75ページ、
2:20:31	MMRのチェックのところ、弱使ってるこれ面談センターン使ってるのって、これ先行の炉とかで言ったようなことやってる。
2:20:43	じゃなかったでしたっけ。
2:20:45	臨床の方はそこは確認されてませんか。
2:20:50	日本原燃キョウダでございます。
2:20:54	少し私の方ではちょっと確認できていない部分もありましたのでちょっと確認はしたいと思います。
2:21:01	辻ハバサキです。はい私もちょっとうろ覚えなんで、ちょっと確認をお願いします。それともう1点、青森県ということなんていうか実際に
2:21:12	今回使われてるMRの物性値が79ページに出てますが、
2:21:16	これは、コンクリートの物性値になるわけですか。
2:21:27	現況でございます。はい、さようでございます。
2:21:31	具体的には70、その前のページ77ページのピークのところ、これが、
2:21:38	コンプレッションのMMRという理解でよろしいですか。
2:21:42	米野キョウダでございます。ご認識の通りでございます。
2:21:46	規制庁箱崎です。はいわかりましたで、基本的に地盤レベルシリーズでも、このマンメイドロックについてはRC基準と、弱、4601、
2:21:56	に基づき設定するという事だったんで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:21:59	それに基づいて設定された値というふうに理解しました。ちなみにF Cは、
2:22:07	何。
2:22:08	幾つですか。
2:22:12	日本原燃キョウダでございます。
2:22:14	今回隣接の検討としましてMRのF Cとしましては、
2:22:22	44.7 ニュートンを使ってございます。隣接の検討としましては一律、この値を使うことを考えております。以上になります。
2:22:32	上田ハバサキです。そうすると、
2:22:37	次のF Bのところですねページが143 ページからのところなんですけども、
2:22:45	これ郵便本体の直下がMMRなんですけども、
2:22:50	俺も同じ値を使われてるっていう理解ですか。
2:22:54	日本原燃姜でございます。NMBの下にあるMMRにつきましてはちょっと取り扱いがちょっと異なっております、こちらS Rモデル等を使っております基礎下の設計を地盤としましては、
2:23:07	MMR部分を高層に置換しまして、
2:23:11	麻生。
2:23:12	物性を用いているといったようなことをしております。
2:23:17	以上になります。
2:23:19	規制庁ハバサキですそこら辺ですね先ほど耐震建物8番のときに、カミデからも話があったんですけども、地盤の支持性能なりの資料のところですね、
2:23:33	今地盤物性についての記載も非常に少ないんですけども、
2:23:39	マーメイドロックに対しても、
2:23:42	ほとんど記載がない状態で、今この資料を見るためには、もう
2:23:50	旅客だけやと、4PのMMRの違いっていうのが、物性の違いっていうのが読めない。
2:23:58	ですね。
2:23:59	だからちょっとそこをきちんとそれぞれ説明をしてもらいたいというふうに思うんですが、
2:24:07	この資料に限らずですね。
2:24:09	地盤の物性の説明のところを含めてなんですけども、
2:24:16	それは今、事業者としてはもうされているという認識なんでしょうか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:24:35	日本原燃姜でございます。起訴した部分の、NMRを掲示板としては鷹架層に関するといったところは、
2:24:45	地盤の補助資料、
2:24:48	088耐震建物08の資料で記載してございます。以上になります。
2:24:56	規制庁戸崎です。08のところなんですけど例えば地盤のCCのところ、資料。
2:25:05	とか地盤の00シリーズのところの目のところには、
2:25:12	そういった説明がですね、今、されてないというふうに理解してますので、
2:25:18	ちょっとトータルで見てですね、記載すべきところにはやはり、準備の方をしてもらいたいというふうに思います。
2:25:26	はい。富樫でございます先ほどの08で神谷さんからいただいているコメントもございまして地盤物性の記載のII内容といったところに関しましてはしっかりと、
2:25:39	再度精査した上で適切な場所に適切な内容の方を記載するような形の方で対応の方やっていきたいというふうに思います。特に今ご指摘のあったMMRの部分に関しては、
2:25:51	共通で上野さんにおいてもちょっと、地盤の記載の仕方極生の記載の仕方等でですね、コメントの方いただいておりますので、そちらの方にもですね合わせて、
2:26:01	一番の取り扱いの、
2:26:04	部分も含めた形の方で記載の方、
2:26:08	充実させていきたいというふうに思います以上です。
2:26:12	はい。規制庁小崎です。冒頭、お聞きしましたように燃料加工建屋ですとコンクリートで置換して、分析を
2:26:22	こうですとFC事業部の若菜だとかさっきのA案Bでは、小高細尾と同等ですとかですね、そういった説明であり数値ですね、各種諸元定数。
2:26:35	について、やはりもう少しわかりやすく資料図づくりの方をしてもらいたいと思います。私から以上です。
2:26:49	規制庁タケダですその他規制庁側から確認はございますでしょうか。
2:26:58	よろしいでしょうか。
2:26:59	それでは日本原燃の方から本市についての修正方針と、
2:27:04	不開示情報発言がなかったかどうか、あとは修正のCEOへの展開、
2:27:13	レビュー者について確認をお願いいたします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:27:18	日本原燃キョウダでございます。今回いただいたコメントとしましてはまず概要の部分ですね補足と添付それぞれの位置付けがわかるような記載の方を、
2:27:29	さしていただければと思います。また、労働を地盤に置換して、解析の方を実施している件につきまして、記載の方こちらも、
2:27:39	充実さしていただきたいと思います。また先ほどお話あったMMRの部分ですとか、地盤の
2:27:50	資料との兼ね合いを見まして、資料の方、修正さしていただければと思います。
2:27:59	はい。非開示情報につきまして発言はございませんでした。また他の資料への展開としましては地盤の治療、
2:28:07	等も見て、展開していきたいと思います。あとは本資料のレビュー者につきましてはオオガキとなります。以上、よろしくお願ひいたします。
2:28:19	はい、ありがとうございます。
2:28:21	軽重がわからないからありますでしょうか。
2:28:28	よろしいでしょうか。
2:28:29	それでは最後の資料の確認に進みます。
2:28:33	次の資料が耐震建物 07 ですね、こちらについて説明をお願いいたします。
2:28:39	日本原燃のノウショでございます。
2:28:42	それでは耐震建物 07 度、07 番の、
2:28:46	耐震設計の基本方針に関する、水平 2 方向及び鉛直方向地震力の組み合わせに関する評価文抽出ということで、
2:28:53	内容をご説明させていただきます。
2:28:56	本資料につきましては、前回のヒアリングでございました主な指摘事項であります、観測記録の再現の際における側面回転ばねの
2:29:05	取り扱いに関して指摘を踏まえまして、一部文書の記載を見直しましたので、
2:29:12	見直したというものになります。
2:29:15	説明は以上になります。
2:29:19	すいません。あと、2 件ほど、文章の訂正がございますので事前に、
2:29:25	ご連絡させていただきます。
2:29:27	まず通し番号の 36 ページ目。
2:29:30	ですねこちらをご覧ください。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:29:34	36 ページ目の一番下の文章、また以降ですねまた本説明事項については、補足説明資料、
2:29:42	補正説明資料での補正申請を行う予定であるということですのでけれどもこれについては
2:29:48	ちょっと古いバージョンでの記載が残っていたものになりますのでこちらについては削除させていただきますようにこの場でご連絡させていただきます。
2:29:59	2 点目の訂正につきましては、通し番号の 122 ページ目を
2:30:04	ご確認をお願いいたします。
2:30:08	こちらにつきましては、
2:30:13	一番下の段落の d ポツの出店形態をモデル。
2:30:18	文章の中でかぎ括弧の、
2:30:21	1 行目です鍵括弧の設計基準強度等、2 行目の実強度、これが順番が入れ替わってしまっておりましたので、この場で訂正させていただきます。
2:30:37	訂正内容については以上になります。
2:30:43	規制庁の竹田です。ありがとうございます。それではこの資料につきまして、規制庁側から確認がありましたらお願いいたします。
2:30:54	規制庁ハバサキです。冒頭説明されたシミュレーション解析のところで、確認したいと思います。
2:31:02	資料ですと 156 ページあたりからなんですけれども、
2:31:06	まず、157 ページに、各フロアにおける解析結果と、観測記録の比較が出てますので、
2:31:16	これ、解析方法、
2:31:19	解析モデルの入力の方法等について次ちょっと概要説明いただけますでしょうか。
2:31:51	日本原燃ウラバヤシでございます。川崎さん今おっしゃったのは 150、7 ページのの比較をどういうふうにやったかということによろしいでしょうか。
2:32:02	はい、支店長浜崎です。そうです。概要で結構です。
2:32:06	はい。
2:32:07	ですねまず観測記録が赤字でございまして、それぞれのゆレベルでの床応答スペクトルを描いております。それに対して、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:32:18	3次元FEMモデルに、側面の並進ばねに加えて、回転場でも考慮した場合の床宇都スペクトルを重ね書きしてございます。
2:32:27	それぞれNSEW上下方向、書いておりました、これ以前ですね、
2:32:36	回転場でも見ておりません並進ばねだけです。
2:32:39	こちらピーク的位置は大体合ってるんですけども、やはりシミュレーションの方が大きく、まだ
2:32:50	それほど合いは良くないという状態でございます。
2:32:54	それに対しまして、今回は改めて側面回転ばねを考慮したケースというのをちょっと比較しましてそちらの方がより近くなったという、
2:33:06	ものでございますそれがこれが、
2:33:09	162から、
2:33:17	同じでございますがこれは
2:33:21	破線が青の破線が回転ばねなしで、青の実線が回転ばねありでちょっと先ほどの選手がややこしいんですけども、側面の回転ばねを、
2:33:31	見た方が観測記録には近づいたという結果が出られたというものでございます。以上です。
2:33:39	はい規制庁岡崎です。これ、地下三階を、の観測記録、これをアンカーにとって、3次元のFEM建屋、それと側面地盤ばね、
2:33:51	をつけたモデル、その伝達関数を求めてそのアンカー基準での各応答を、
2:34:04	周波数応答を、データ使っ掛けて計算しているというふうに理解してます。で、これ、各方向は別々です。それぞれ3方向、
2:34:16	独立でやっているという理解でいいんですかそれとも3本同時で、
2:34:20	計算なんかされてるんでしょうか。
2:34:36	少々お待ちください。
2:35:16	はい。日本へのウラバヤシでございます。155ページに記載している中段ほどに記載してます通り、
2:35:24	鉛直方向は、3方向入力。
2:35:27	のものとなっております。
2:35:30	規制庁浜崎です。水平は別々で、
2:35:34	鉛直は3本と人入力の結果という形で理解しておけばよろしいですか。
2:36:18	せ、戸松りました。衛藤。
2:36:21	水平鉛直ともこれ3方向入力。
2:36:24	でございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:36:26	規制庁ハバサキです。ちょっとそこ、
2:36:31	3方向同時入力でそれぞれN S E W U D、
2:36:36	アンカー、観測記録に合った形で伝達関数を求めているという、
2:36:42	分析なんですかねちょっと、要はですね
2:36:45	長くの人なんで時間かかりそうなんでこちらの義務、義務で言いますと、
2:36:50	要はU Dのアンカーの地下三階の観測と解析が合っていないんですね。で、これよくやる手法なんですけども、
2:37:00	N S E Wはぴったり合うわけです。当然合わせるように伝達関数を求めるわけですから、合うわけなんですけども、何でU Dは合っていないんだろう、そこが疑問です。
2:37:11	理由は説明できますか。
2:37:28	日本原燃ウラバヤシでございます。それだけちょっと確認させていただきたいと思います。
2:37:33	以上でございます。はい。規制庁阿部です。はいですから、多分これ線形の話なんでN S E W Dすべて独立でやって、
2:37:42	多少防雪してるのかと思ってたんですけどもそうでもなさそうですし、
2:37:48	先ほど言われた、同時入力の影響なんてU Dにその幸せが来てるのか、そこら辺がわからないんで、ちょっと井関の方法ですね、
2:37:58	やり方全体っていうよりも最初の方法について、ちょっと詳細に説明を地域してもらいたいと思ってますんで、
2:38:06	その時に、多分、側面回転ばねありなしでは、こういう伝達関数を変えている。
2:38:14	それぞれのモデルに応じた伝達関数で評価してるというふうに思いますので、そういったことも含めてですねもう少し
2:38:21	解析手順について詳細な説明をしてもらいたいと思います。よろしいでしょうか。
2:38:30	表現でウラバヤシでございます。承知しました。
2:38:33	規制庁浜崎です。それで、
2:38:35	この資料の結論としては、A B建屋に関しては側面回転ばねを考慮するのが、合理的な、より現実に近いモデルであると。
2:38:48	ということで、ただそのボックスに関してはいろんな理由で側面改訂版ではつけてないんですけども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:38:55	B 立てについては側面回転ばね A がある方が、す、菅観測記録の再現性が高いというふうに判断したという理解でよろしいですか。
2:39:08	日本原燃浦部先生。はい。その通りでございます。A B 建屋を変えてまでにつけた方が再現性は高いという事実がえられたということでございます。
2:39:18	以上です。はい。はい。規制庁岡崎です。
2:39:22	そうしますとですね、先ほど説明があった、
2:39:25	阪神竹野の 10 番の減衰のところ、
2:39:28	これは出展系で A B 建屋のシミュレーション解析やってますけれども、
2:39:34	こちらは回転側面回転ばねついてないように思うんですが、
2:39:46	意味でトガシでございますおっしゃる通りでございます。付けてないモデルで解いてございます。
2:39:52	先ほどの説明からすると、A B 建屋に関しては側面回転ばねあり、
2:40:01	より a s - i s に近い状態のモデルと考えられるんですけども、
2:40:06	要は 10 番の資料のシミュレーションも側面回転ばねあり、
2:40:11	そこまでつけた方、つけるべきではないでしょうか。
2:40:14	ていう、
2:40:15	ちょっと思うんですけども、菅そこら辺事業者と考えてますでしょうか。
2:40:28	はい。日本原燃富樫でございますちょっとこちらの方の資料、下水の方の資料でございますけどもどちらかと言いますとこちらの方
2:40:38	建物減衰に沿ったところで影響みたいっていったところ作っているものになってございまして、どちらかという、その回転ばねといったところに関しては、いろいろと
2:40:51	ひずみ領域によって見れる見れないというようなお話もあったりとかっていったところが先行サイトの方の議論であったというふうに少し認識しているところもございましたので一般的な知見が確認されている水平までのみですね逸散減衰を見た方がこういった減衰の評価としてはいいんじゃないだろうかといったところで、
2:41:10	今現状評価しているものになってございます。ですので、同じシミュレーション解析といったところでございますけども、やはり一般的な知見の中で、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:41:21	編集までっていったところでの確認の方がより一般的かなというところでこの減衰の資料に関しましては、通常の並進ばねのみの逸散減衰の方見させていただいてるといったところでございます。
2:41:34	規制庁浜崎です。富樫さんと、多分説明は、
2:41:40	B建屋のホンチャンのモデルですね本申請人遅れるのことを、
2:41:46	念頭に置かれて、今のような発言があったかなというふうに想像します。これ前のヒアリングでもそうなんですけども、一旦話なんですけども、
2:41:56	ここまで水平2方向の検討では、A B建屋に関しては側面回転ばねあった方が、やはりより a s - i s に近い値という結果がえられた以上、
2:42:08	設計モデルとしてはさ、保守的に外しますっていう考えもあるんですけども、
2:42:15	それは次回の話、A B建屋の工事の話にもなるんですが、今回申請上でですね同じ建屋を、そこが回転場であるところは、
2:42:25	シミュレーションつけてあるところはつけてないっていうのは、
2:42:29	ちょっと説明が、苦しいといえますかなかなか受け入れがたいところがあるんです。実際、S i e r の S R モデルでもシミュレーション、側面回転ばねつけたのをやられてたというふうに、
2:42:43	思ってますので、
2:42:46	そこは、建物 10 番の方の資料、
2:42:50	改定するなりとかですね、何らかの考えが、
2:42:56	必要じゃないかなというふうに思いますけれども、
2:43:00	その点、事業者としてはやはり、
2:43:03	今のままでいこうということでしょうか。
2:43:07	はい日本への投資でございます浜崎さんのご指摘のところ、その一貫通貫というようにお話だというふうに理解しましたので、おっしゃる。
2:43:18	ところが表のところでございますのでちょっとこの減水側の結論が変わるわけではございませんので、下水道の部分に対しましても、ちょっとロッキングのばねの方も入れたもので、
2:43:31	解析したものもですねあわせて追加するような形の方で対応の方図らせていただきたいなというふうに思います。以上でございます。
2:43:38	はい。規制庁小崎です。我々規制側からそうすべきだっていうのを、そういう発言は、やはりできないんですけども。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:43:48	やはり、同じ申請上で、片やつけて、片やそのメンバーでつけてつつ、一方はつけてない。
2:43:54	そこには、もしそういう違いをつけるなら、やはり明確な理由は必要ですので、そういう点を踏まえてですね扱いの方、検討してもらいたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。
2:44:08	はい、二村土橋でございますご指摘も踏まえたところに対応の方さしていただきたいというふうに思います。
2:44:14	はい。規制庁山崎です。私からこの週に関して以上です。
2:44:24	規制庁の竹野です。ちょっと確認させてもらいたいですけれど。
2:44:29	まず 89 ページをお願いします。
2:44:43	ほんで
2:44:46	IC利益の面外方向に愛する画面算定結果が出ているんですけど、
2:44:55	ちょっと前の話で申し訳ないんですけど、
2:44:59	ですね、和気戦乱の検定比が、9月時点の資料から、
2:45:06	2月の2も前回出てきた資料の時点ですね。
2:45:11	それにかけてで経過が変わっていると思うんですけど、その変化結果が変わってる理由っていうのを説明いただけるでしょうか。
2:45:47	所長の近田さん。
2:45:48	はい。
2:46:03	すいません。二本木のウラバヤシです。
2:46:09	ちょっと面外せん断に関しましては終局での値を短期の値に変えたかもしれませんでちょっと確認させてください。
2:46:19	はい。規制庁の竹田です。
2:46:22	はい。社長の事実確認の方をお願いします。
2:46:29	ワノーですね。
2:46:30	許容値、最大線、面外せん断力も許容値も両方とも値が変わってるような気がしまして、
2:46:38	ちょっとそういった点も含めて事実確認をお願いしたいと思います。
2:46:47	病原ウラバヤシです。承知しました。
2:46:50	はい。規制庁の竹田です。
2:46:52	今壁のと言いましたけど、
2:46:58	ページがですねと 100、106 ページ、ここで天井スラブもあるんですけど、これについても、結果が変わっております。これも

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:47:08	入力ですね応力について目標値についても両方とも変更になっていると、ということですので、これも併せて、確認をしていただきたいと思います。
2:47:22	井上野村バイス承知しました。
2:47:27	私からはこの資料は以上です。その他、確認はございますでしょうか。
2:47:33	規制庁の岸野です。私からちょっと1点、資料の説明性の向上という観点での確認をしたいと思います。58ページの方をお願いできますか。
2:47:48	お礼、このページをですね表の下中期、
2:47:54	するリスクの2で、応答補正比率という言葉が出てきます。
2:47:59	資料でのこの説明の順番からすると統制比率についてはこのページで初めて出てくる。
2:48:06	んのですが、
2:48:11	もう、
2:48:12	このですね、表の中の説明内容と統制比率の関係。
2:48:17	というのがですねちょっとホームページ或いは前のページを含めて一読してもですね。
2:48:22	何のことかわからない説明になっているかと思imasので、ちょっと確認です。まず表の方では精査に使用する地震動としてS s AとかCとか出ています。
2:48:33	下の注記の2番だと、
2:48:37	一方でこのS Dの7を用いるとか、
2:48:40	或いはその下でS Eの絵を用いるということで、
2:48:44	S s
2:48:46	精査を使用すると言いながらS Dを用いるっていうのはその間の間、間をつなぐものとして統制比率というものを位置付けられているかと思うんですが、
2:48:56	そういった応答補正比率とS s - Dの関係、3次元F E Mモデルを用いてという辺りの関係性がちょっとここでは説明がなくてよくわからないと。
2:49:08	このご当選比率、詳しくは、この後の方に出てくる参考資料の方読めば、こういったものかっているのわかるかと思うんですがその中でも、
2:49:18	A L P H Aとかデータとか増えたとか3種類出てきて、ここではどれを説明してるのかというのはわからないかと思imas。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:49:25	まずう、この辺りのあらましをですねちょっとご説明をいただきたいんですけれども、よろしいでしょうか。
2:49:46	清町キシノです。私の音声は聞こえましたでしょうか。
2:49:52	失礼しました日本のウラバヤシです。すいません一部聞き取りにくいところがございましてもう一度お願いできますでしょうか。はい。すいませんちょっと通信環境が中心ですので、簡単にもう一度言いますけれども、
2:50:05	58 ページ表の下にある応答補正比率が、ここで初めて出てくるんですけれども、表では、S s の説明をしていて、
2:50:16	表の下の注記ではS Dを用いるという、説明になっています。その間を埋めるのが多分、応答補正比率かと思うんですけれども、どのような位置付けでこの応答補正比率というのがここで表れてくるのか。
2:50:31	というのが一つと、あと後ろの参考資料の方を見ますと、統制比率というのは3種類出てきますけれども、それとの対応は、ここでの説明は、それとどう、どう対応しているのかという、この2点、教えていただけますでしょうか。
2:50:48	日本原燃ウラバヤシでございます。
2:50:50	まず最初にS DからS sにつなぐためのものの比率として抜けてるような記載なんですけれども、198199の方ですね。
2:51:05	まず、特に199ですね、応答値をS D応答をS sに引き上げる際にエネルギー等価の考えで、
2:51:16	S sに応答を、
2:51:19	引き上げます。
2:51:21	でよかったっけ。少々お待ちください。
2:52:01	はい。日本原燃同士でございます。まず、
2:52:08	58
2:52:09	58、58 ページに記載されている※2 の記載の部分ですけども、こちらの方は、入力地震動を使う際に用いるS Dの記載として事業許可に記載されている部分のS s に対しての比率として、
2:52:25	記載されている0.5倍というようなS s からS Dへの変換比率の0.5倍という値の方を記載しているのが、この50、
2:52:35	8 ページのほうの記載になってございます。
2:52:38	一方で $\alpha \beta$ I T E Rというようなふうで書けるものに関しましてはこちらの方は各2方向の影響として出てくる各

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:52:48	モデルから書かれてくる比率がございますのでそちらの方を、 $\alpha \beta \eta$ というような形の方で、最終的に一応この検討のものに、日本法の影響として×値のものを $\alpha \beta \eta$ という形で書けるものとして記載しているものがございます。ですので、
2:53:04	係数倍で使っている位置付けのものが、58 ページのものは、入力地震動の S_s から S_D の変換のための 0.5 倍である。後段の方の $\alpha \beta$ インターというのは一方向の入力に対して応答値に対して、
2:53:18	日本高の影響経費率として×値のほうを記載しているものでございます。以上でございます。
2:53:25	室長の岸野です。58 ページの注記 2 の冒頭補正比率っていうのは、 S_s と S_D との比率ではなくって、
2:53:35	後ろの方の参考資料出てくる応答補正比率と同じだと理解してるんですけど、今のご説明だと違うんですよという、
2:53:44	ことだったようですが、違うんですか。
2:53:47	28 ページの冒頭補正比率ってのはこの $S_s - 0.5$ 倍を掛ける 0.5 倍のことを口頭補正比率と呼んでいるということでしょうか。
2:54:11	規制庁の岸野です。聞こえましたでしょうか。
2:54:16	日本原燃ウラバヤシでございます。58 ページの注記のところ、
2:54:23	OWTF 性比率の一つ目の文章をそこでちょっと一旦切れておまして、 CSD の C はを用いるということだけでして、その次の文章は、 S_D を算定するにあたって、0.5 倍するということだけですので、
2:54:40	$=0.5$ というわけではございません。
2:54:43	規制庁の鬼頭ですそうですね。
2:54:45	本橋さんの説明聞いてますと、この S_s の 0.5 掛けのことを通せ比率だっておっしゃったように聞こえたんであれと思ったんですけど間違っていると、
2:54:53	ということで、衛藤わかりましたが、要は後に出てくる参考資料の中でのいろいろと詳しく出てくる、当選比率というものをこの、
2:55:03	注記の中で、いきなり読み込んでるような形になっていて、表に示す S_s と、あと注記にある S_D という関係がですね、
2:55:15	ちょっとわからないので、詳細はその後ろの参考資料の説明で結構なんですけども、初めて出てくるこの 58 ページあたりですね、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:55:25	それぞれの関係性っていうのは、あらましをですね説明していただいた方が、内容が理解しやすいのではないかという趣旨で、ご質問させていただいたもので、
2:55:35	そのような形で、説明の追加をですね、ご検討いただきたいのですが、趣旨の方は伝わりましたでしょうか。
2:55:45	はい、日本へのウラバヤシでございます。まず王道構成比率といったものをSDでやった検討を、
2:55:54	で、
2:55:57	いちいち行くと3次元っていうのを、それぞれ応答の構成比率、
2:56:02	ていうのを出てきた比率をS sに乘じるっていうこと。
2:56:06	ということで係数を出すベースはSDベースで応答の補正比率、それぞれモデル化であったりねじれの影響の比率、その結果を最終的にS sの結果に対して、
2:56:18	評価を行うという趣旨でございますのでそういったのが、
2:56:21	わかるように、充実させていきたいと思えます。事前に前倒しで58ページでも、注釈を追加するなりしていきたいと思えます。以上です。
2:56:34	清町の岸野です。はい。そういう趣旨でお聞きしましたので、そういうご対応の方お願いしたいと思えます。
2:56:41	関連しますけれども、
2:56:45	この注記の2番ですね。
2:56:48	SDC1の入力に際してはっていうことで、
2:56:52	SDC1'を入力するってあるんですけど、
2:56:57	SDのC値って、S sの0.5倍だと思うので、
2:57:02	SDのC1'っていうのはSDのC1と同じじゃないかなあと思ったんですが、何か違いがあるのでしょうか。それと、
2:57:11	なぜそういう違うものをここで用いるとしているのか、その理由を説明していただけますでしょうか。
2:57:18	はい。日本原燃のオガセでございます。こちらでSDの強いOne'というふうにつけているのはですね、今野議長さんおっしゃってた通り、このもともとSD強いOneというの、SSCワンの0.5倍のものになるんですけども、
2:57:32	今回この3次元の3方向入力する上で、この地震動をNSEWUDの3成分定義してあげる必要があるというところになってます。一方でS sのC案というのが、水平1成分の鉛直1成分だっているところがありま

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	すので、水平の直交成分を何かしら定義してあげなきゃいけないというところがありました。
2:57:50	そこで、この部門をこれ、震源を特定せず策定する地震動というもとの由来のものがあって、この留萌支庁南部地震の観測記録に基づいてこのSSC湾というのは決めているところがございますので、Ssにしていけない、水平方向の直交成分を、
2:58:05	ものというのはこの地震感想記録、留萌の地震観測記録というものを半分にするので今回SD'SDの強いOne'というところで定義したというものでございました。ですのでSsとして定義しているものの半分ではなくて、
2:58:18	ですそのなぜISAの同SDの強いOneと同レベルでのちゃんと直交成分まで定義した、成分セットという意味で今回このSDの強いOne'という名前をつけさせていただいている次第です。
2:58:31	成長のキシノですね、表し理解しました。
2:58:35	3次元入力するにあたっては
2:58:38	Vの記録に基づく基盤地震動までさかのぼらなきゃいけないということだったと思います。ちょっと、そうすればならない辺りはちょっと理解足りなくて、
2:58:49	Ssの0.5倍をNSEWに与えるということでは入力するのはできないものなんでしょうか。ちょっとその辺り補足いただけますか。
2:59:02	日本原燃のオガセでございます。今の岸野さんおっしゃったようなやり方になってしまいますと、例えばNS方向で、この波入れてEW方向でも同じ波を入れるといいますといわゆる斜め45度にこうずっとこう、
2:59:15	いわゆるもう一方向し斜めの1方向振動みたいな形になってしまいますので建物の3次元のなんていう振動特性こういったところを見る上では不的確適確といいますかあまり適切ではないというところがございますので、
2:59:28	やはりきちんとある程度の何ですかね各成分に揺れを持つような振動を見るという意味ではこういった実際の地震にも積もってのNSとEWそれぞれ定義された位相を使って、
2:59:39	それを組み合わせて入力していくというのが評価としては適正なのかなというふうに考えている次第です。
2:59:46	規制庁の内野です。わかりましたというと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:59:51	だと思えます、米についてSD強いOne'を使った考え方っていうのは参考資料の中で、その設定の経緯も含めて説明があるという理解でよかったです。
3:00:10	日本原燃ウラバヤシでございます。参考資料の中でご説明してございまして、
3:00:17	動きっていうのは、
3:00:19	例えばですから197ですか。
3:00:25	197ページのところで中段から以下ですね、の方に、
3:00:33	強いOne'と、
3:00:36	間使うというところを書いてございます。規制庁の岸です。はい、わかりました。確かにここに、そのあたりの説明があるということでちょっと見落とししておりました。ありがとうございます。
3:00:48	それとちょっと絡むのかもしれませんが58ページに戻っていただいて中期の3番ですが、
3:00:55	これも同じような趣旨のご説明があって、SDのなんですけども、
3:01:00	SD-AもSs-Cと同じでですね、NSEWの区別ってのはないわけですが、注記3の説明は、
3:01:07	片方は、同時性を考慮して模擬地震はを用いる。
3:01:11	というところで、もう片方についての説明がないままここで終わってるんですけども、
3:01:16	※3、注記3も、注記2と同じような考え方で、
3:01:22	もう片方は、同じ模擬地震はだけど、位相を変えたものを用いているという理解でよろしいのでしょうか。
3:01:32	日本原燃のオガセでございますおっしゃる通りの認識でございまして、SDA-Aに対してそれに直交するものとして、位相違いの波というところを定義してあげて、使っているということになってございます。
3:01:44	院長の岸田です。はい、わかりました。ちょっとここは言葉足らずな説明になってると思いますのでちょっと注記3の見直しも含めてですね、藤先ほど全体の話がわかるような説明ということで、説明の方ももう少し充実させていただければと思います。
3:01:59	私からは以上になります。
3:02:07	機長の
3:02:09	規制庁の武田です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

3:02:11	すいません私からもう1個だけです確認させてもらいたいですけれど。
3:02:15	161ページをお願いします。
3:02:24	ここから3行目のまたガッキーで、地上4階、能ということで、
3:02:33	円柱ポートが大きく、
3:02:35	大きくなる理由が理由というか考察がされているんですけど、
3:02:39	これについて、
3:02:43	この分析結果に至った理由ですね、163ページが、そのシミュレーション解析結果のスペクトルが示されているんですけど、
3:02:53	この理由説明に至った理由を説明いただけるでしょうか。
3:03:09	少々お待ちください。
3:03:40	日本原燃浦上でございます。はい。
3:03:44	163ページのところでございますが、シミュレーションと3次元のモデルとの記録を、
3:03:53	重ね描いておりまして、赤の観測記録が、地震計で観測された1地震計の位置でございます。
3:04:03	濃いブルーが、上のモデルの図の受信系を取り囲むような接点、
3:04:10	での応答の平均値を採用してございます。観測記録を見ますとちょっとわずかではございますけれども、
3:04:19	同じような周期体に若干の盛り上がりというものがわずかで見られます。
3:04:25	これが3次元のモデルですとこの開口の周りによりちょっと明瞭なピークとして出てきておるんですが、等を共通の要因としては、開口部の要するに、
3:04:39	開口部の近傍であるということが考えられますから、これで位置的なものではないかということ推定してございます。
3:04:48	以上です。
3:04:51	はい規制庁の武田です。観測記録にも盛り上がりがあるということなんですけれど、
3:04:59	3次元FEM結果の他、
3:05:04	接点での応答結果も同じようなですね、盛り上がりになっているので、
3:05:10	どこの結果だけで開口部の瀬、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

3:05:14	キョウダというのはちょっと説明が不十分じゃないかと思うんですけど、もう少し言うと前々回ぐらいの資料だとSRモデルの結果も併せて記載がされていて、そのSRモデルの結果、
3:05:28	もうこの0.04秒付近で、
3:05:32	結構大きなですね、山が出たりっていう経過になっていました。だから、SRモデルで、当然開口の影響なんていうのは反映はされないと思うのでちょっとほかに要因があるんだと思うんですけど、もう少しこれ分析はすることは可能でしょうか。
3:05:56	はいに植野ウラバヤシでございます。はい。検討させていただきます。以上でございます。
3:06:03	はい。規制庁の竹田です。お願いします。
3:06:07	その他この資料について、規制庁側から確認はございますでしょうか。
3:06:15	よろしいでしょうか。
3:06:18	それでは原燃の方からこの資料についての修正方針と、
3:06:25	配り情報の発言がなかったか等の説明の方、お願いいたします。
3:06:33	はい。日本原燃のノウショでございます。本資料の
3:06:38	修正内容につきましてまとめさせていただきます。
3:06:42	まず観測記録の再現におきまして、
3:06:45	解析方法ですとか手順の説明の具体化、具体的な説明の地域を行わせていただきます。
3:06:53	また
3:06:56	途中でございました壁と天井スラブの面外せん断の評価におきまして、
3:07:03	以前の資料から数値が変わっていたということがございますので事実確認を行います。
3:07:09	また
3:07:12	応答補正比率の説明に関しまして、初めて出てきたところでの説明が不足しているというところがございましたので、
3:07:20	そのあとに出てきます参考資料の記載等を参考にしまして、そちらでの説明を追記いたします。
3:07:28	また同じところで、3方向同時入力の説明につきまして直交方向の振動の扱いの説明が少し不十分なところがございましたので説明の明確化を行います。
3:07:43	また観測記録の
3:07:45	再現につきまして、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

3:07:47	0.1 秒以下の短周期のところ、合っていないというところの説明性、
3:07:53	につきまして追記を行わせていただきます。
3:07:57	非開示情報については特になかったと。
3:08:03	それから日本原電ウラボヤシでございます。これ、もう 1 点申し上げるところございまして、すいません。通しのページ 16 ページでございますが、
3:08:15	現在全体の取りまとめというかコメントちょうだいしてるのは承知してございまして全体の取りまとめにあたりまして、ちょっと私ども資料構成中身がわかりやすいように大分手を加えたんですけども、
3:08:31	ちょっと筆が滑ったというか、わかりやす過ぎまして、荷重組み合わせの応答特性の整理と、右左。
3:08:40	その軸で、3 次元的な応答特性の整理、2 本の柱みたいなものになってしまっておるんですけども、これ自体が私ども自身の基本方針であるとか添付資料。
3:08:53	といったものとちょっと不整合を生じてるという詳しく展開して次で 2 本になってるっていうものがございます。
3:08:59	私が言ったもの自身の方針としては、一本の軸の中に 2 方向の荷重組み合わせというものの検討、それに加えてその直列の流れで、
3:09:11	それが 3 次元的な応答性状みたいなもので、局所的に組み合わせるものがあるかどうかというのをダブルで抽出して、そういうところに、
3:09:20	双方に水平 2 方向六ヶ所に対して影響があるのかなのかという検討をするといったものが、もともとの考えでございまして、
3:09:30	先行発電の 3、柏崎さん等をもう一度振り返ってみましたら、やはりそういう直列の体系になってございましたので、この辺、注記も含めて、
3:09:42	記載の適正化をさせていただきたいと思います。以上でございます。
3:09:47	不開示情報はございませんで、
3:09:52	チェックは衛藤オオガキが、
3:09:55	担当いたします。以上でございます。
3:10:02	規制庁の竹田です。事ございます。
3:10:06	のですね
3:10:08	メガ以下で天井スラブの断面算定結果なんですけど、面外せん断力という構造、おっしゃっていたんですけど、面外の下の結果も変わっておりますので、こちらもおわせて確認はしてください。お願いします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

3:10:26	承知いたしました。
3:10:30	規制庁は何かございますでしょうか。
3:10:38	よろしいでしょうか。
3:10:39	それではですね本日予定していました資料の確認としては以上となります。
3:10:46	全体を通して何かございますでしょうか。規制庁側いかがでしょうか。
3:10:53	規制庁上出です。耐震の
3:10:59	1.2 S s 数絡みの補足説明資料っていうのが、
3:11:04	連休前のヒアリングでは、5月9日の週という話になっていったんですが、先週それは遅れるっていう連絡を事務的にもらってますけども、
3:11:16	現在の予定等を教えてもらえますか。
3:11:21	はい。日本原電タニグチです。
3:11:23	すいませんでした以前そうですよね。5月9日の週に、
3:11:28	お出しをするということで、内野イシハラの方からちょっと今、対応として、資料まだまとめているところなのでというお話させていただきました。衛藤。本日の時点で、
3:11:38	一応あと最終的に出すにあたってのレビューをしようということで今関係者に配布をしております、一応明日をお出しできるようにということで今社内調整しております。
3:11:50	先週金曜日に出ささせていただいたスケジュールでもですね、一応 1.2 S s 関係ということで下のところに四角を打って、お出しをさせていただいておりました。
3:12:01	現状の明日お出しするということで進めております。以上でございます。
3:12:09	はい。規制庁関係です。わかりました。
3:12:18	はい。先週いただいたスケジュール表でいうと、
3:12:25	明日その 1.2 S s 関係があり、そのあと、
3:12:31	25日のところにまた四角がウであってということなんですけどこれは、
3:12:36	1.2 S s に関係しないところが今 25 日を目指して、要は普通の D B の D B の耐震衛星の耐震のところ、
3:12:46	のリバイス版が 25 日ということですかねそこに 1.2 S s はとりあえず含まないってことですかね。
3:12:55	やはり、日本原燃谷口です。今おっしゃっていただいた通り明日、00-02 とかあと十時-02、あと耐震、って 2 S s

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

3:13:06	みたいな 1.2 S s 関係のものを出させていただいて、25 日の日は同じ 0002 のうち、おっしゃっていただいた普通の耐震設計の部分を以前いただいたコメントを反映してお出しする、そんなことで考えておりました。
3:13:24	はい。規制庁カミデです。わかりました。
3:13:30	あと先週いただいたスケジュールでいうと、
3:13:35	印が打ってない補足説明資料がまだあるように、ちょっと今見て思ったんですけど、そちらの認識としてはどうですか一応全部示してるっていう形になってますかね。
3:13:50	はい。日本原燃谷口です。この場で申し上げるのがいいかどうかあれですけど、MOX に関係をする資料につきましては、こちらの 00 資料も個別の補足の説明資料も、すべて、
3:14:02	印をつけさせていただいたと、いうふうに考えております。以上でございます。
3:14:09	はい、規制庁カミデですわかりました。一応その認識で確認しておきます。はい。私の方からは以上です。
3:14:20	規制庁竹田ですその他規制庁側から何か確認等ございますでしょうか。
3:14:28	よろしいでしょうか。県の方から何か連絡等ございますでしょうか。
3:14:33	はい。こちら日本原燃です特にございません。ありがとうございました。
3:14:38	規制庁の竹田です。
3:14:40	それでは本日のヒアリングは以上とさせていただきます。お疲れ様でした。
3:14:46	お疲れ様です。
3:14:48	お疲れ様でした。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。